

平成30年度
県民アンケート調査
報告書

<概要版>

平成30年11月

奈良県

目次

第1章 調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 調査票の配布・回収の状況	1
第2章 調査結果の分析	3
1. 県民の生活全般について	3
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	7
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	8
1-6 奈良県の住みやすさの評価	9
1-7 将来の奈良県での定住意向	10
1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由	11
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について	13
3~11. 県民の生活に関する意識やニーズについて	21
3. 産業・雇用について	21
4. 観光について	26
5. 農業・畜産業について	28
6. 文化振興について	30
7. 健康づくりについて	32
8. スポーツ振興について	34
9. 地域医療について	36
10. 子育て・結婚について	39
11. 奈良県への愛着について	40
12. 回答者に関すること	41

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「産業・雇用」や「地域医療」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「産業・雇用」や「地域医療」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3. 調査の設計

◇調査地域	奈良県全域	◇調査対象	県内在住の満20歳以上の男女・個人
◇調査標本数	5,000人	◇調査抽出法	層化二段無作為抽出法
◇調査方法	郵送配布・郵送回収	◇調査時期	平成30年5月18日(金)～6月6日(水)

4. 調査票の配布・回収の状況

◇配布件数	5,000件	◇有効回答数(率)	2,527件(50.5%)
-------	--------	-----------	---------------

■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者	158	6.3%
夫婦	20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者	247	9.8%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	159	6.3%
教育期前期	小・中学生、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者	349	13.8%
教育期後期	専門学校生・短大生・予備校生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	180	7.1%
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	123	4.9%
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	507	20.1%
非該当又は無回答		974	38.5%
合計※注		2,697	-
有効回答数		2,527	100.0%

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(2,527件)と一致しない。

■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民(奈良県にずっと住んでいる人)	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,360	53.8%
新住民(奈良県に新しくきた人)	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,137	45.0%
無回答		30	1.2%
合計		2,527	100.0%

■奈良での就労区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
奈良県内で働いている人	就労場所が奈良県内の回答者	1,011	40.0%
奈良県外で働いている人	就労場所が奈良県外の回答者	325	12.9%
非該当又は無回答		1,191	47.1%
合計		2,527	100.0%

第2章 調査結果の分析

1. 県民の生活全般について

1-1 現在の暮らし向きの実感（問1）

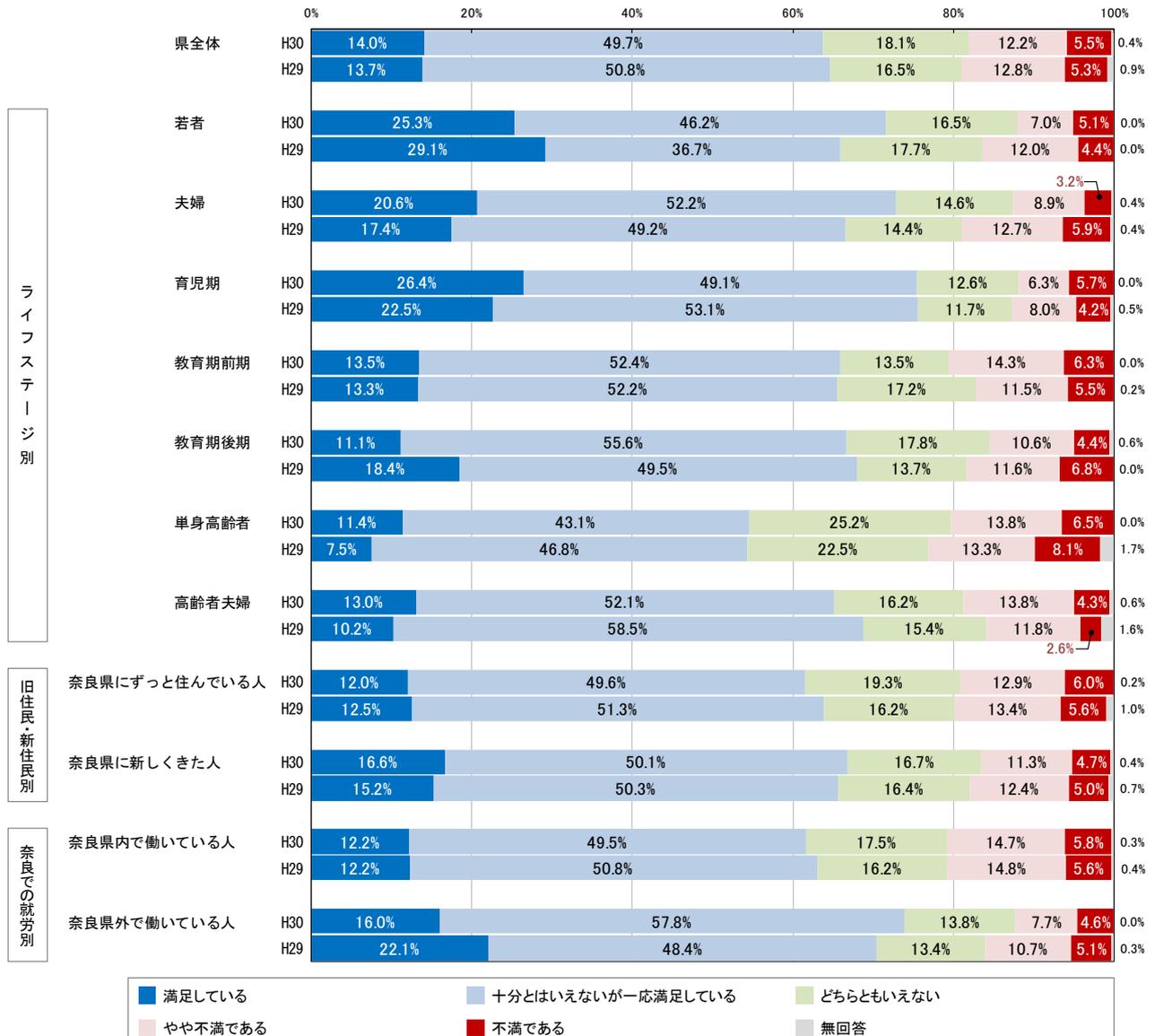
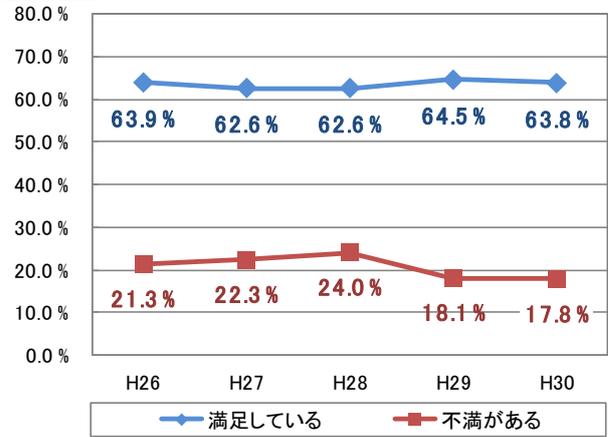
■「満足」（「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」）している人は、平成29年度と比較すると、0.8ポイント減少し、「不満」（「やや不満である」+「不満である」）を抱えている人も0.4ポイント減少しています。

■ライフステージ別にみると、「満足」している人が最も多いのは『育児期』（75.5%）、次いで『夫婦』（72.9%）となっています。一方、「不満」を抱えている人が最も多いのは『教育期前期』（20.6%）となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（66.8%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（61.5%）と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』（73.8%）が『奈良県内で働いている人』（61.6%）と比べ多くなっています。

年度別



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

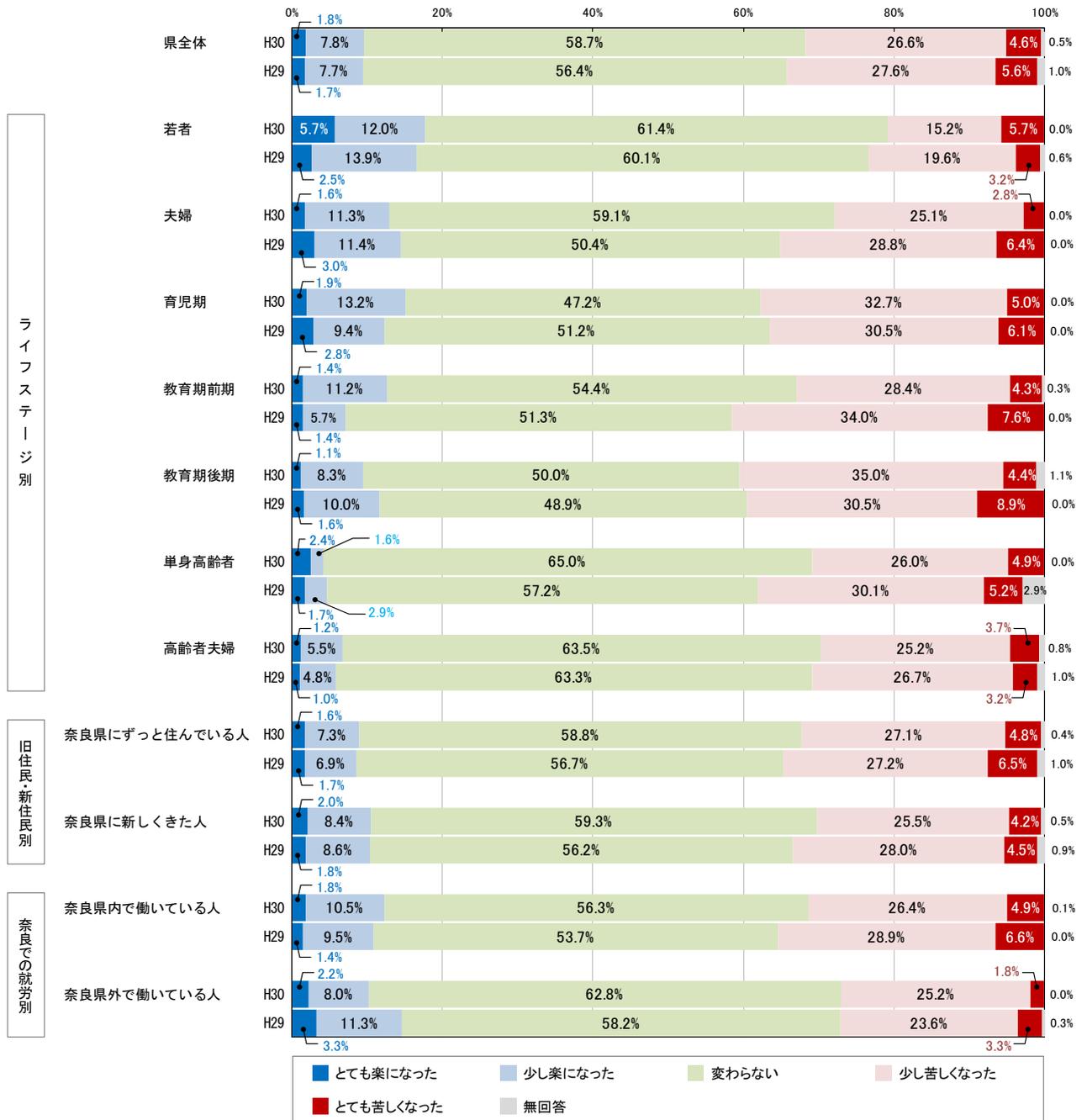
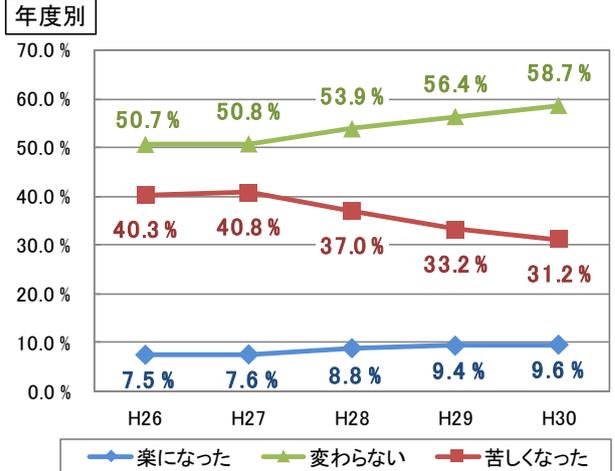
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

■「変わらない」と感じている人は、平成29年度から2.3ポイント増加しています。また、「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人は、平成29年度から0.2ポイント増加しています。一方、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人は、平成28年度以降、減少傾向にあり、平成29年度から2.0ポイントの減少となっています。

■ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期後期』（39.4%）が最も多く、次いで『育児期』（37.7%）となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（31.8%）が『奈良県に新しくきた人』（29.7%）と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（31.4%）が『奈良県外で働いている人』（27.1%）と比べ多くなっています。

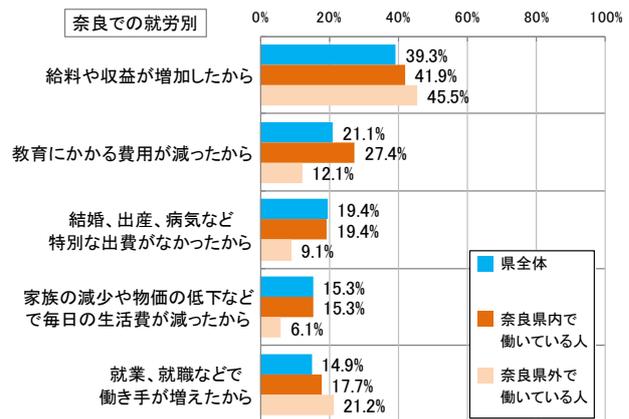
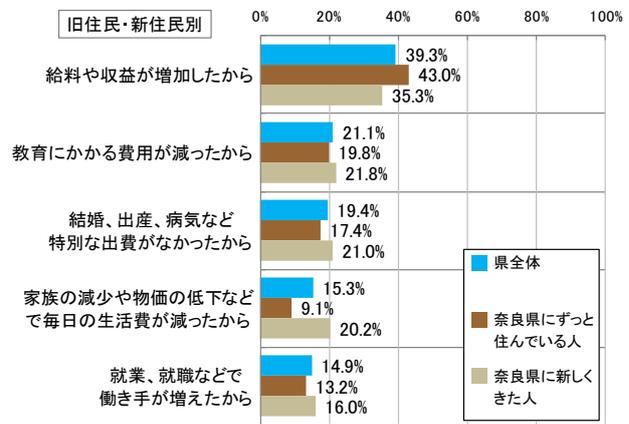
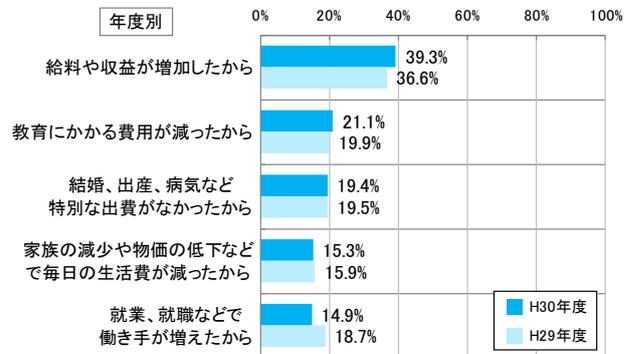
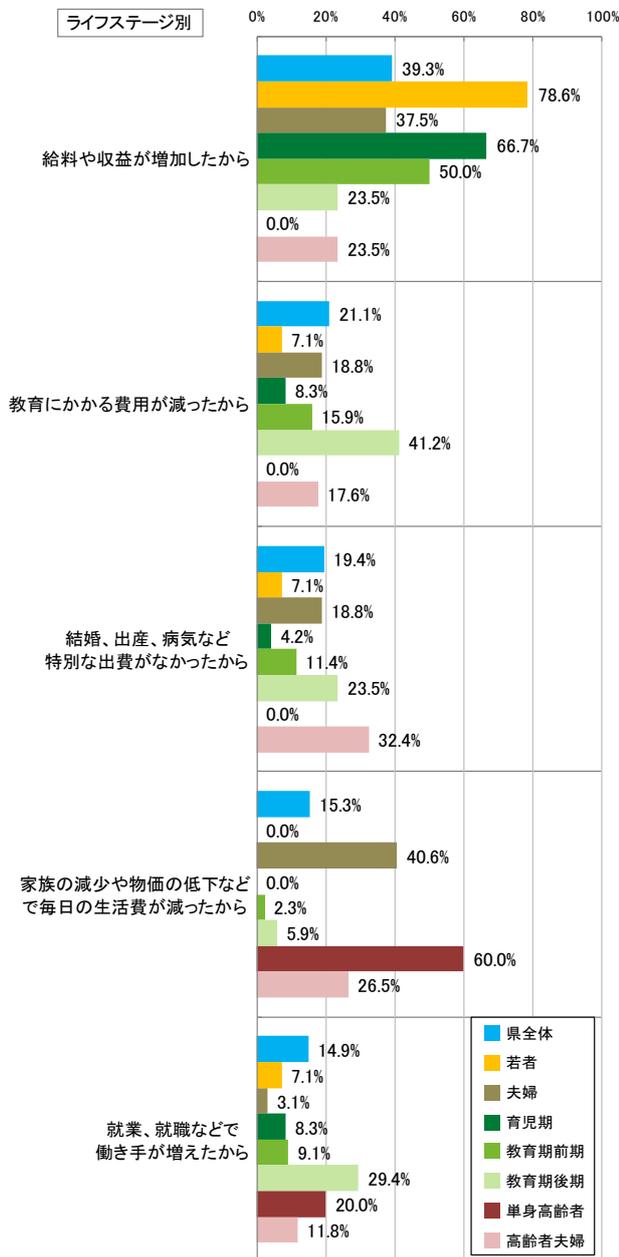


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由

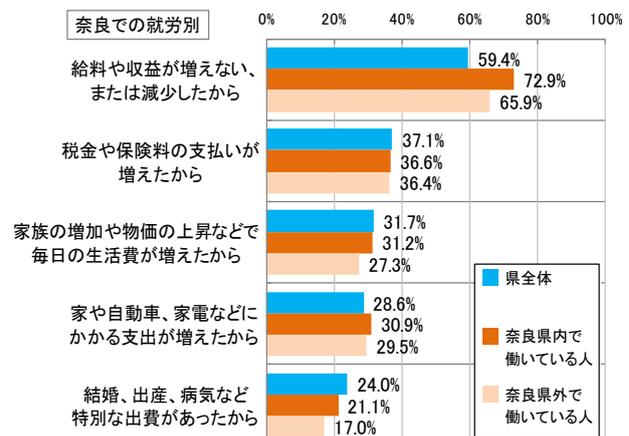
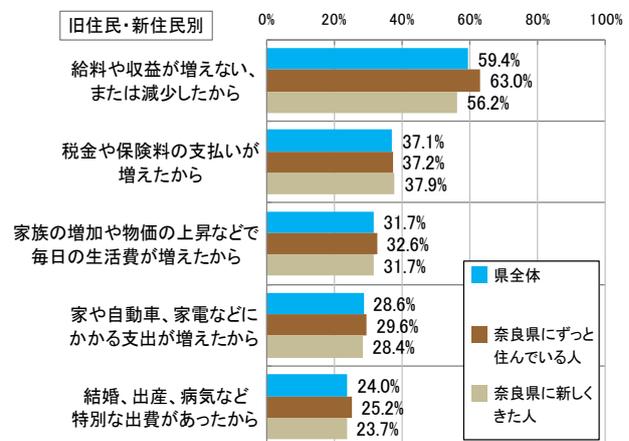
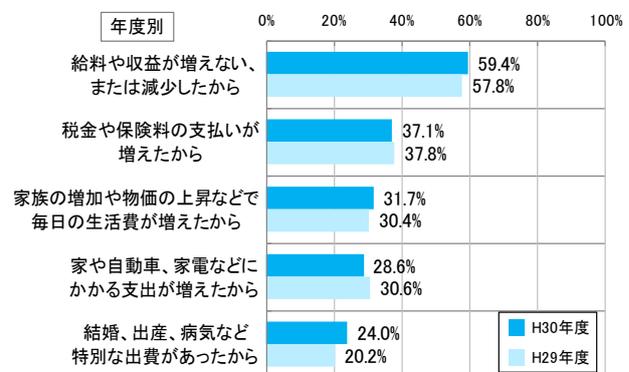
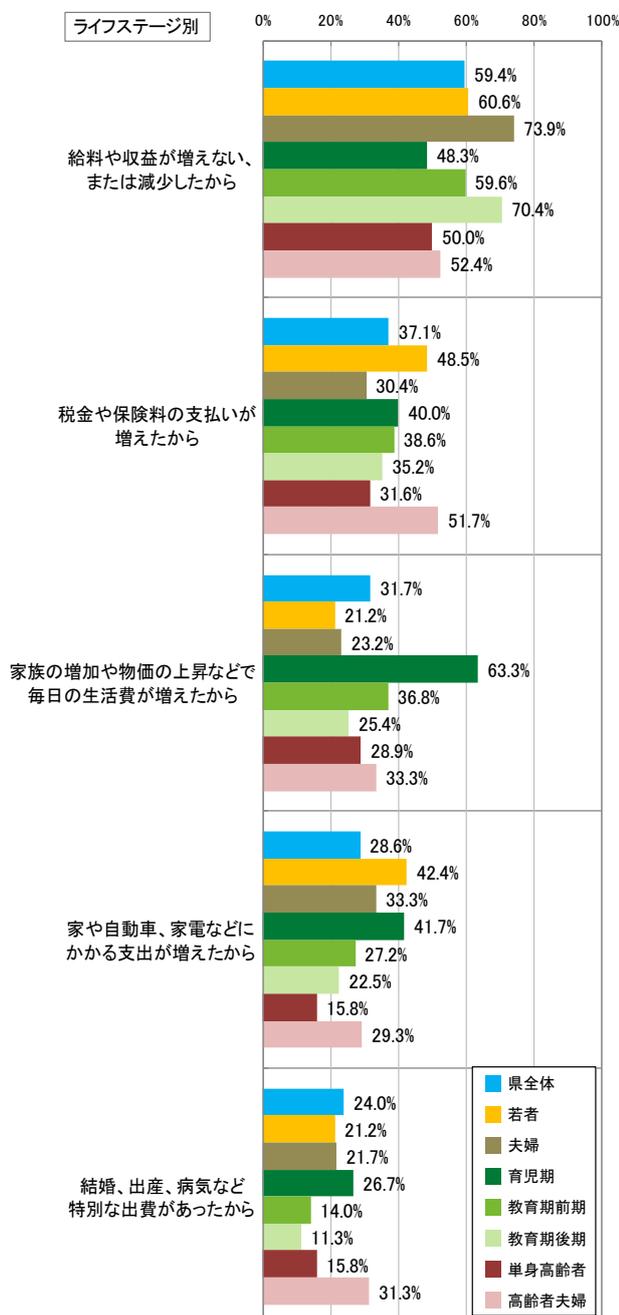
(1) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(39.3%)が最も多く、次いで「教育にかかる費用が減ったから」(21.1%)、「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」(19.4%)、「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」(15.3%)、「就業、就職などで働き手が増えたから」(14.9%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「就業、就職などで働き手が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても苦しくなった」または「少し苦しくなった」と答えた理由 (問4 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても苦しくなった」または「少し苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(59.4%)が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」(37.1%)、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(31.7%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(28.6%)、「結婚、出産、病気など特別な出費があったから」(24.0%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など特別な出費があったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



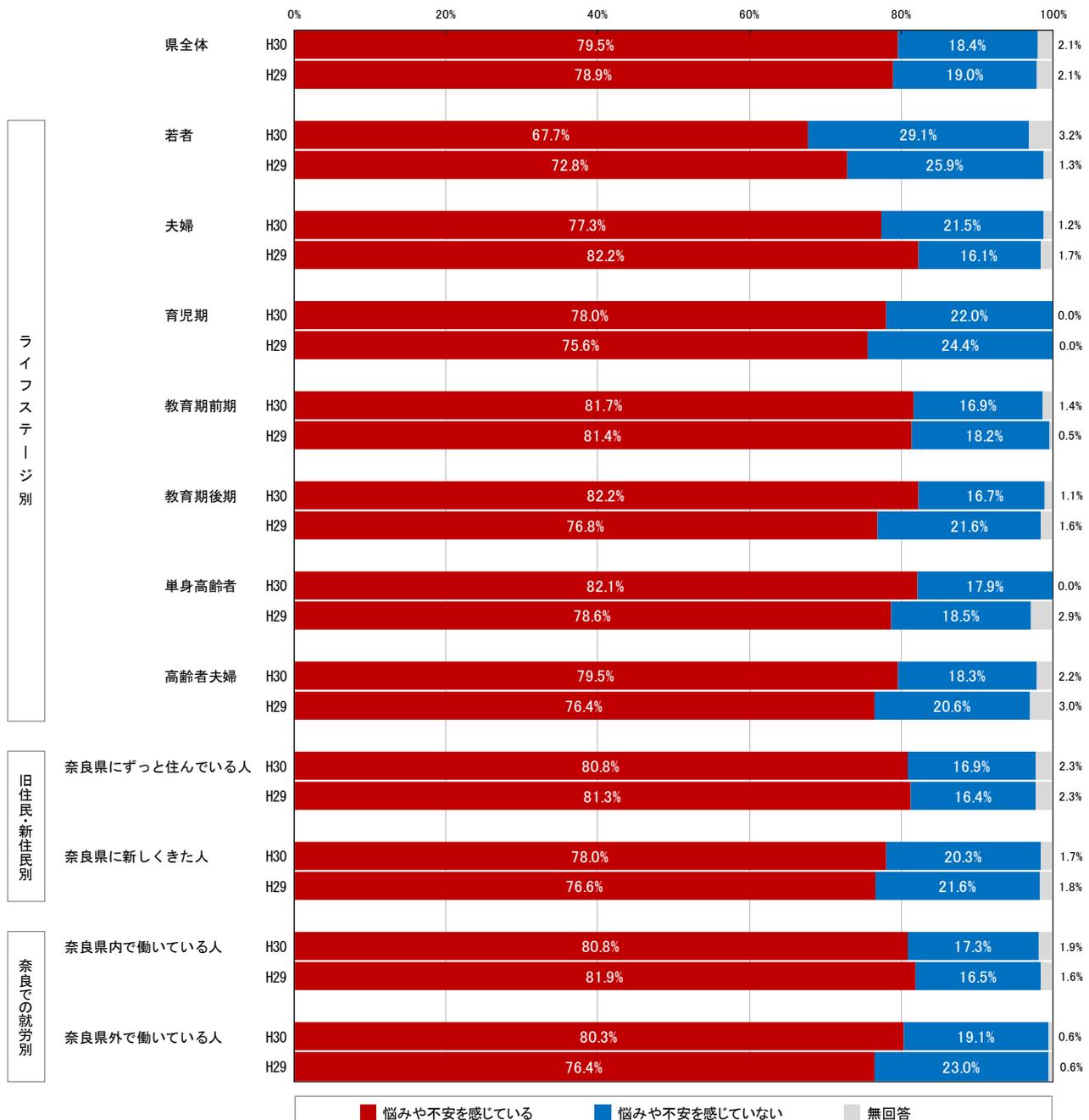
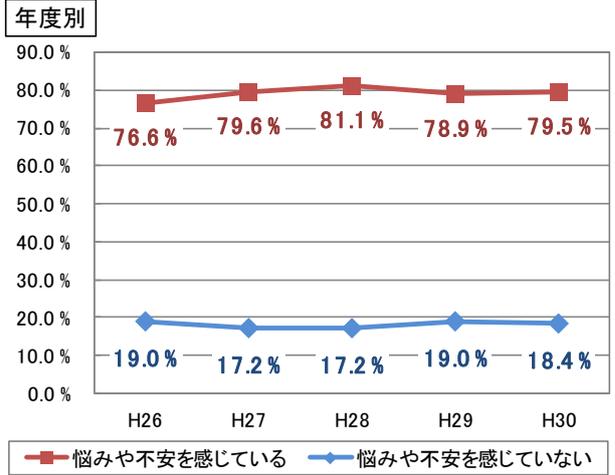
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無 (問5)

■平成 26 年度から継続して 75%以上の人が日頃の生活に対し「悩みや不安を感じている」と答えています。平成 29 年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は 0.6 ポイント増加しています。一方、「悩みや不安を感じていない人」は 0.6 ポイント減少しています。

■ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『教育期後期』(82.2%)、『単身高齢者』(82.1%)、『教育期前期』(81.7%)で8割以上となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(80.8%)が『奈良県に新しくきた人』(78.0%)と比べ多くなっています。

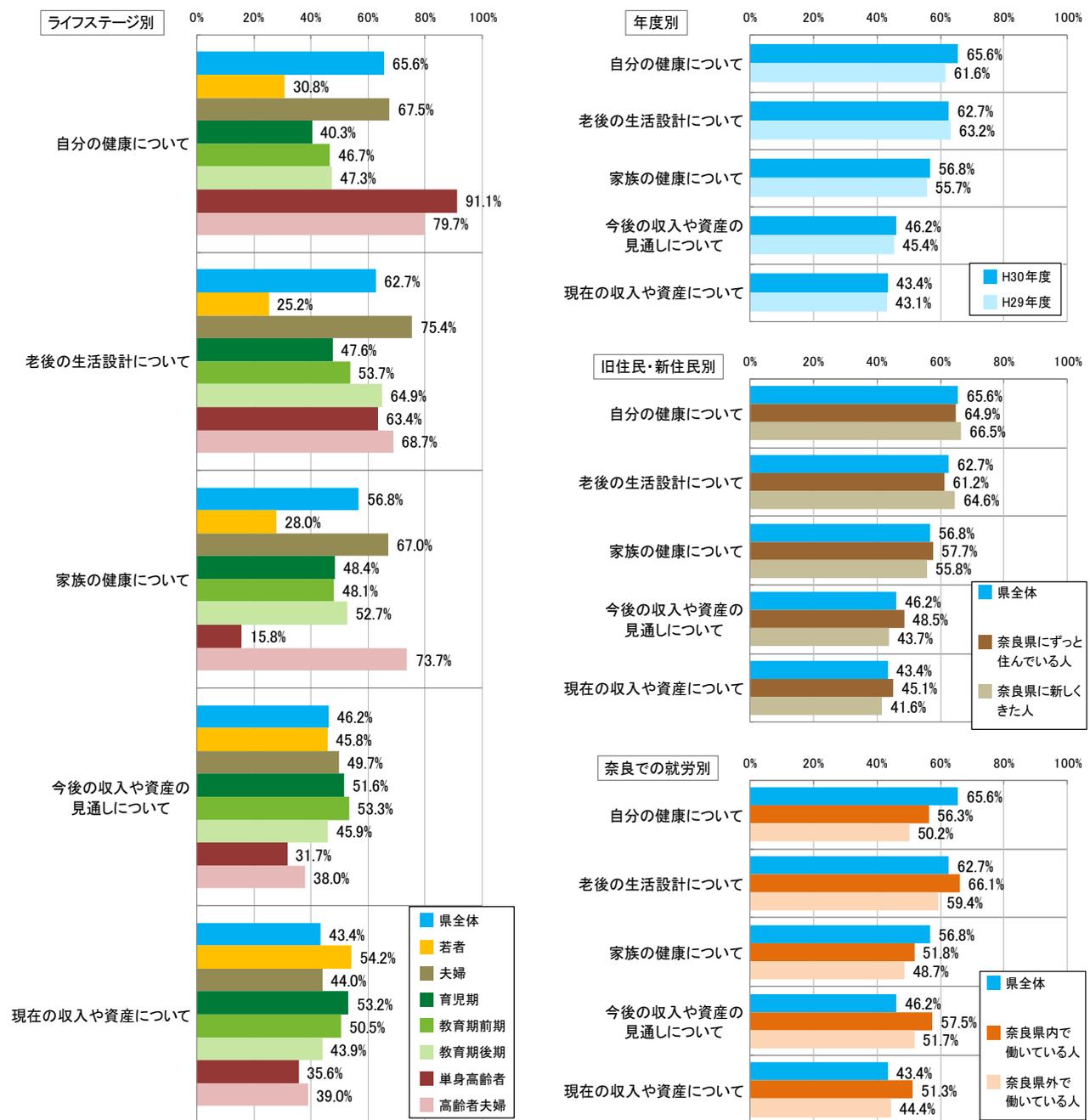
■奈良での就労別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』(80.8%)が『奈良県外で働いている人』(80.3%)と比べわずかながら多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容（問6 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「自分の健康について」(65.6%)が最も多く、次いで「老後の生活設計について」(62.7%)、「家族の健康について」(56.8%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(46.2%)、「現在の収入や資産について」(43.4%)が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



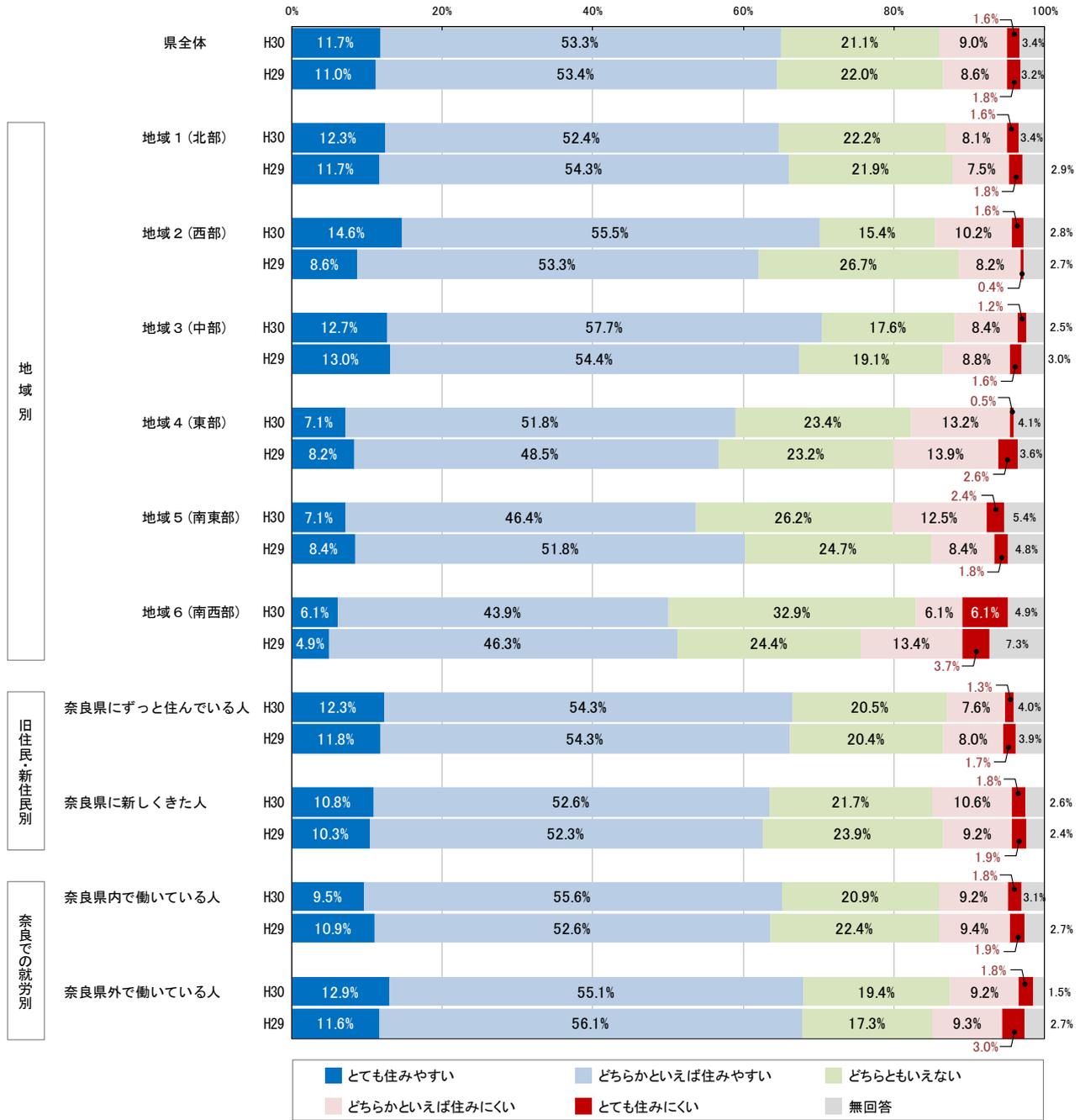
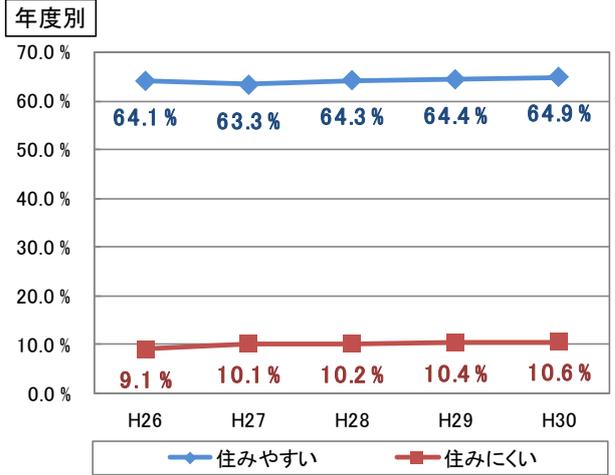
1-6 奈良県の住みやすさの評価 (問7)

■「住みやすい」「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」と感じている人は、平成26年度から概ね横ばい傾向にあります。平成29年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人(0.5ポイント増)、「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」と感じている人(0.2ポイント増)ともにわずかながら増加しています。

■地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域3(中部)』(70.4%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(70.1%)、『地域1(北部)』(64.7%)となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(66.5%)が『奈良県に新しくきた人』(63.4%)と比べ多くなっています。

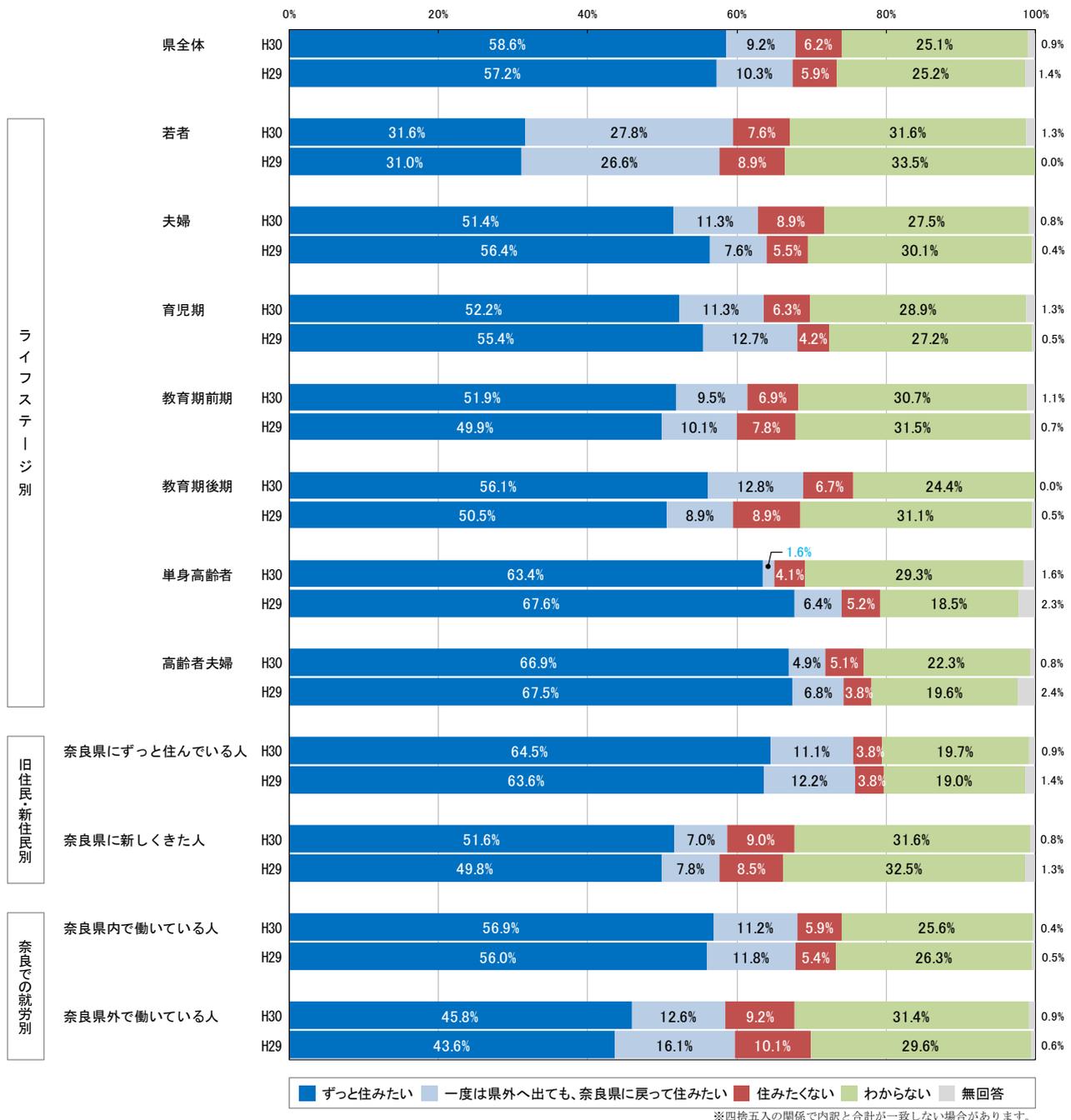
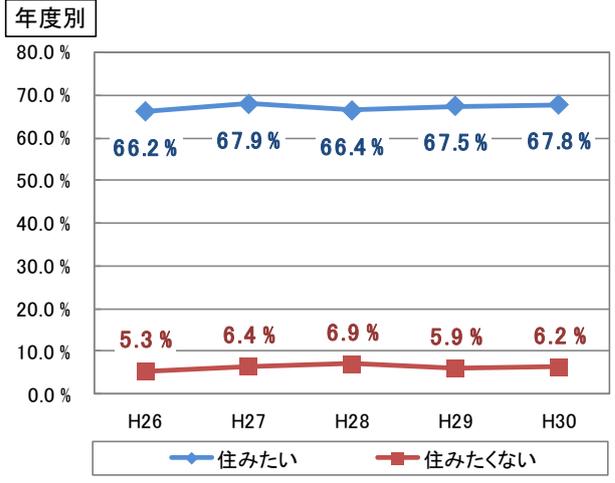
■奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県外で働いている人』(68.0%)が『奈良県内で働いている人』(65.1%)と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-7 将来の奈良県での定住意向 (問8)

- 奈良県に「住みたい」(「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は、平成26年度から6割台後半で推移しています。平成29年度と比較するとわずかながら増加(0.3ポイント増)しています。
- ライフステージ別に見ると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『高齢者夫婦』(66.9%)、最も少ないのは『若者』(31.6%)となっています。一方、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』(27.8%)となっています。
- 旧住民・新住民別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(75.6%)が『奈良県に新しくきた人』(58.7%)と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』(68.1%)が『奈良県外で働いている人』(58.5%)と比べ多くなっています。

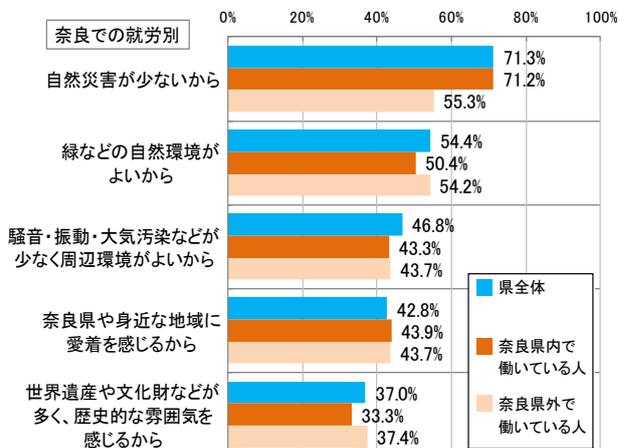
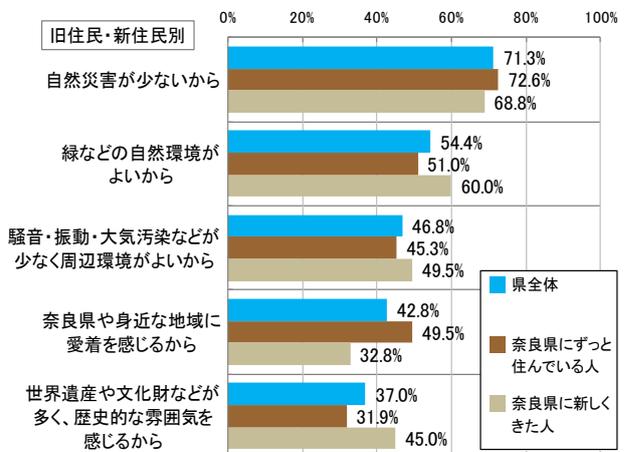
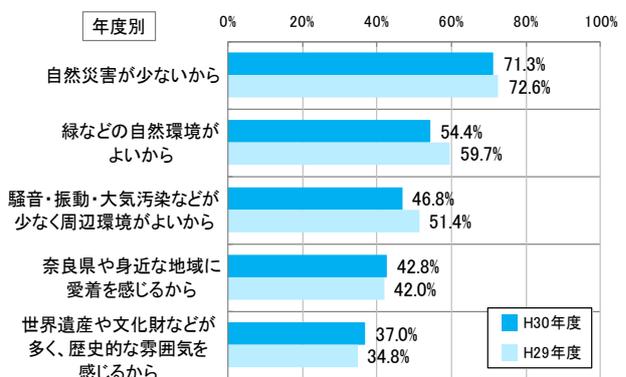
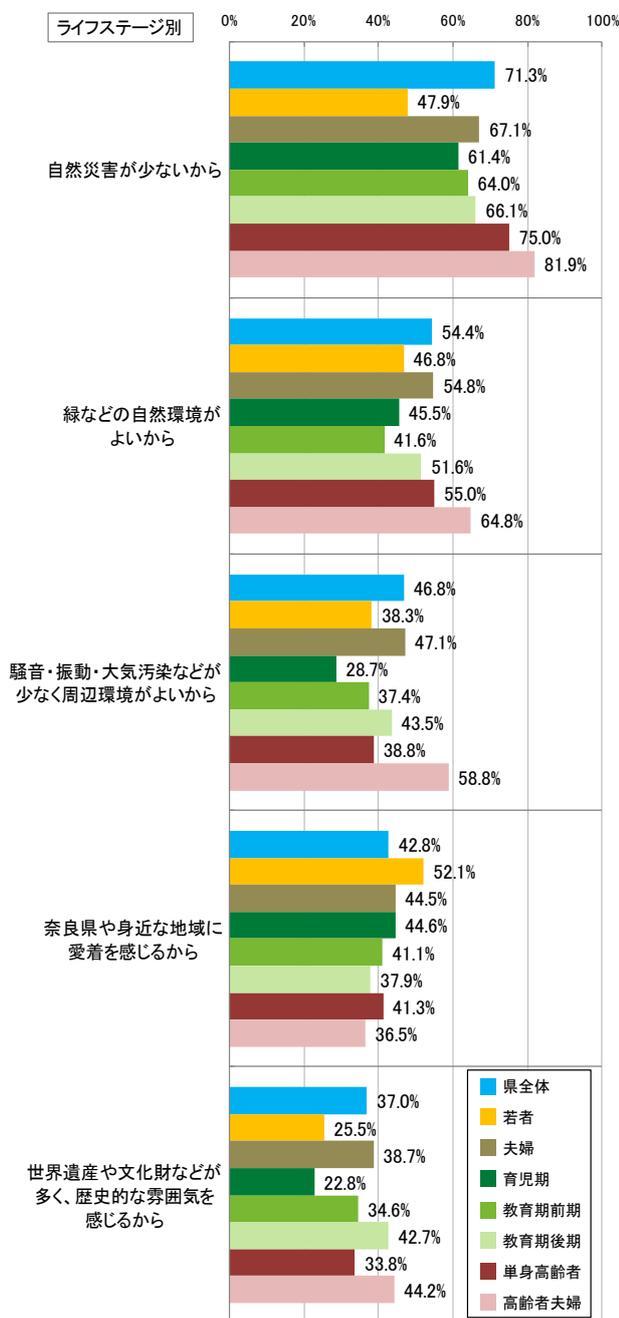


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由

(1) 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

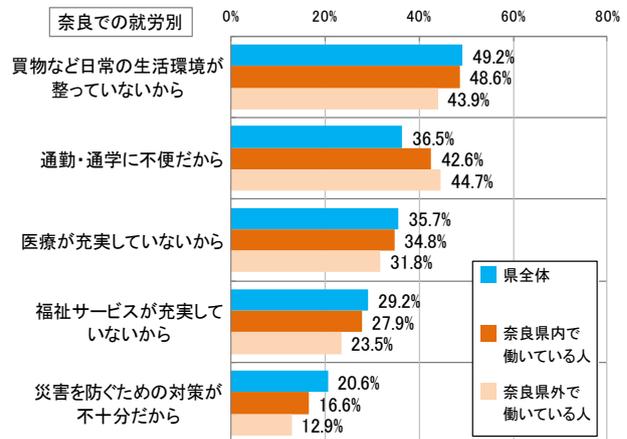
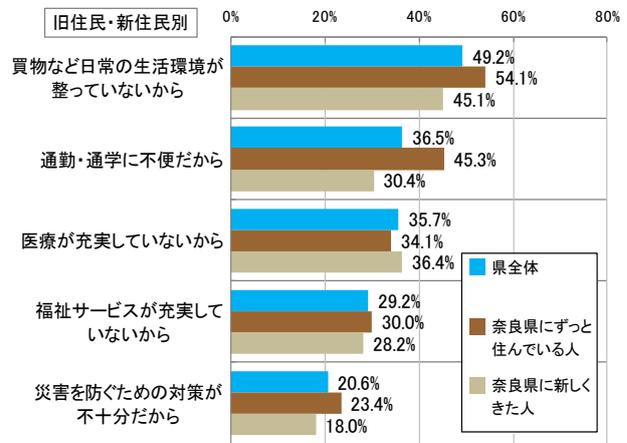
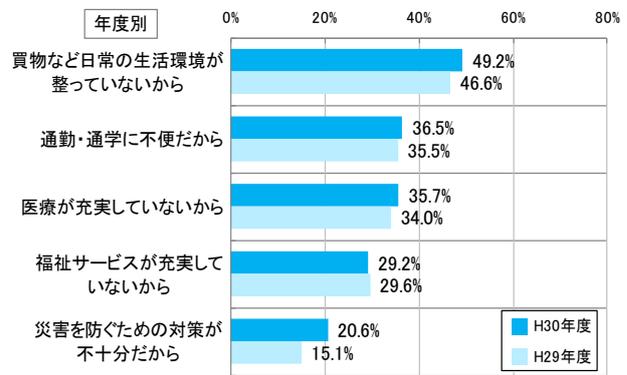
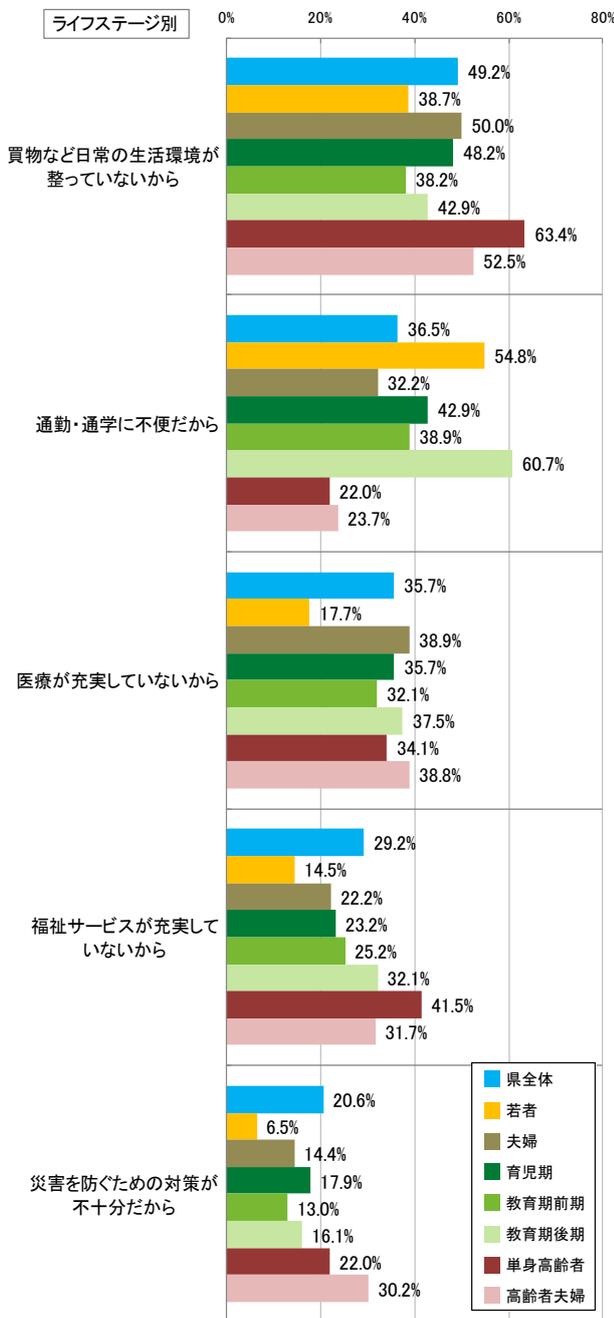
- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」(71.3%)が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」(54.4%)、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」(46.8%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」(42.8%)、「世界遺産や文化財などが多く、歴史的な雰囲気を感じるから」(37.0%)が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」、「世界遺産や文化財などが多く、歴史的な雰囲気を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



(2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由

(問 10 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

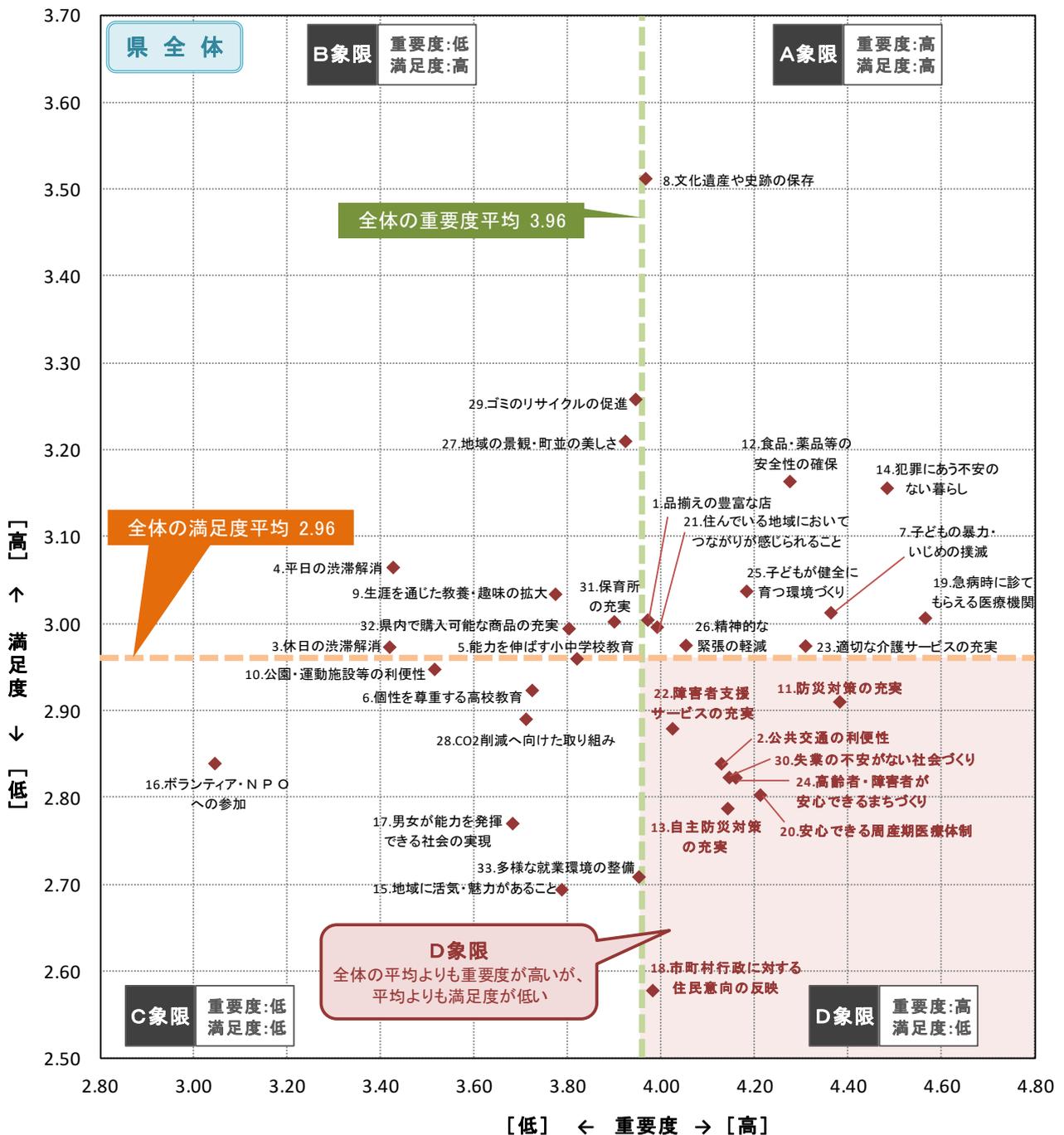
- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買物など日常生活環境が整っていないから」(49.2%)が最も多く、次いで「通勤・通学に不便だから」(36.5%)、「医療が充実していないから」(35.7%)、「福祉サービスが充実していないから」(29.2%)、「災害を防ぐための対策が不十分だから」(20.6%)が多くなっています。
- 「買物など日常生活環境が整っていないから」、「福祉サービスが充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「医療が充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「災害を防ぐための対策が不十分だから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



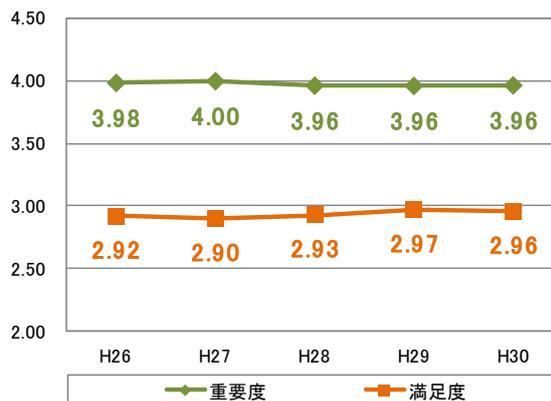
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について(問11 5段階ポイント評価)

(1) 県全体

- 身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階(加重平均)で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。(次ページ参照) ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。(「ニーズ得点＝重要度(加重平均)×6－満足度(加重平均)×」により算出。)
- 県全体では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 26 年度からほぼ横ばい傾向となっています。また、満足度の平均値は昨年度までは上昇傾向にありましたが、今年度はほぼ横ばいとなっています。



【身近な生活に関する 33 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5年間の比較）】

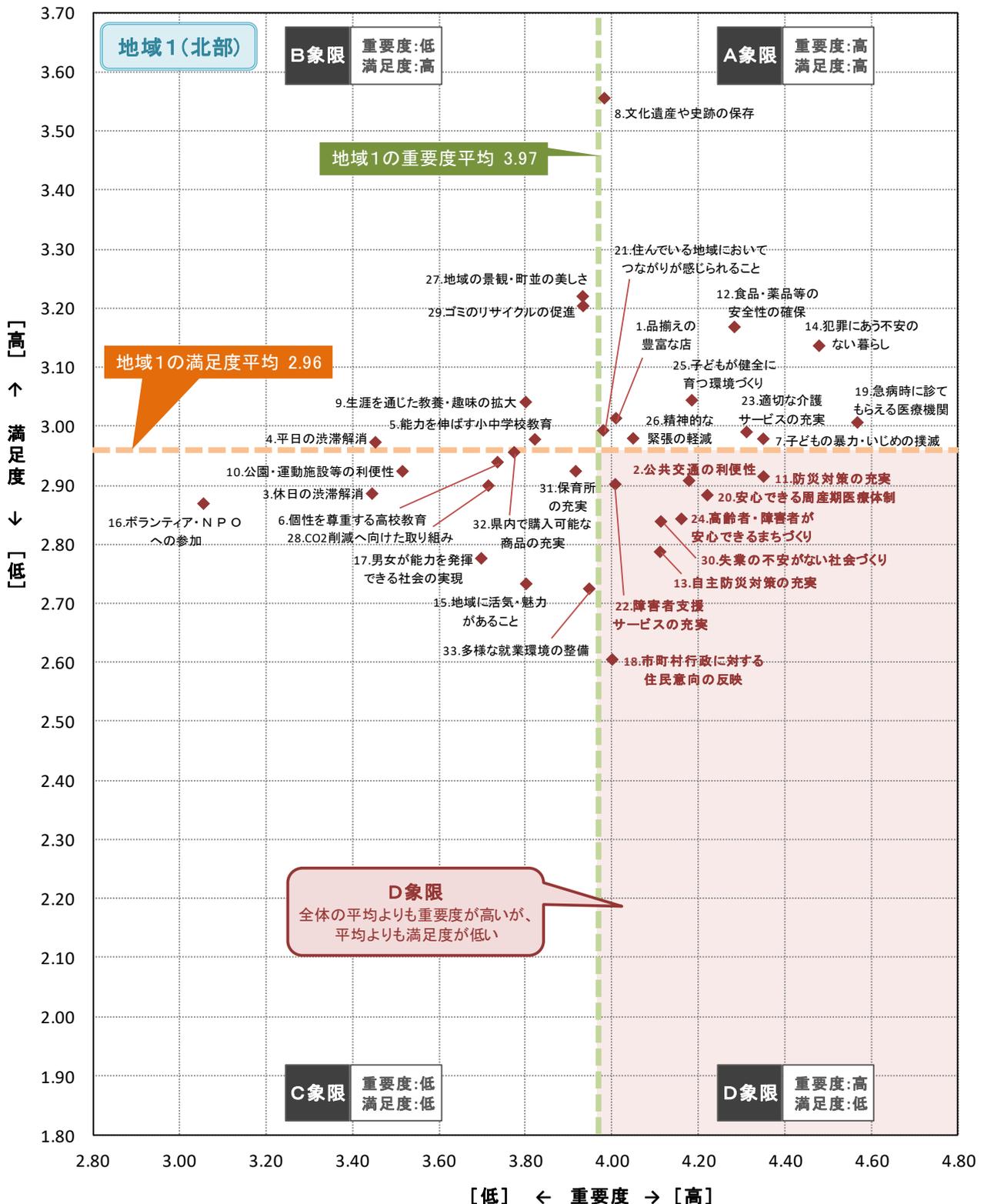
項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					重要度と満足度の関係				
		H30	H29	H28	H27	H26	H30	H29	H28	H27	H26	H30	H29	H28	H27	H26	H30	H29	H28	H27	H26
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.97	4.03	3.90	3.95	3.92	3.00	3.06	3.09	2.94	3.07	11.90	11.82	11.33	12.09	11.47	A	A	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共交通機関が利用しやすいこと	4.13	4.12	4.11	4.10	4.07	2.84	2.89	3.01	2.81	3.02	13.06	12.80	12.28	13.10	12.12	D	D	A	D	A
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.42	3.37	3.42	3.39	3.42	2.97	2.96	2.98	2.97	2.98	10.35	10.23	10.32	10.26	10.33	B	C	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.43	3.38	3.38	3.38	3.41	3.06	3.07	3.08	3.05	3.09	10.06	9.91	9.88	9.95	9.92	B	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.82	3.85	3.84	3.89	3.95	2.96	2.96	2.96	2.91	2.93	11.62	11.70	11.67	12.01	12.10	B	C	B	B	B
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.72	3.75	3.76	3.79	3.82	2.92	2.92	2.91	2.88	2.93	11.46	11.53	11.61	11.81	11.75	C	C	C	C	B
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.36	4.43	4.42	4.46	4.43	3.01	2.99	2.94	2.90	2.95	13.04	13.34	13.55	13.84	13.51	A	A	A	D	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.97	4.03	3.96	4.00	3.96	3.51	3.55	3.58	3.52	3.53	9.87	9.84	9.59	9.92	9.78	A	A	A	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.77	3.78	3.77	3.83	3.81	3.03	3.03	3.02	2.99	3.03	11.20	11.23	11.23	11.51	11.34	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.52	3.52	3.53	3.53	3.55	2.95	2.96	2.92	2.86	2.90	10.73	10.70	10.88	11.09	10.98	C	C	C	C	C
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.38	4.39	4.42	4.42	4.39	2.91	2.93	2.83	2.83	2.77	13.55	13.49	14.02	14.01	14.18	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.28	4.27	4.29	4.32	4.27	3.16	3.20	3.18	3.13	3.11	12.13	11.98	12.12	12.42	12.37	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.14	4.16	4.19	4.16	4.16	2.79	2.79	2.72	2.76	2.71	13.31	13.35	13.76	13.48	13.69	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.48	4.50	4.50	4.53	4.50	3.16	3.20	3.14	3.09	3.13	12.76	12.61	12.90	13.19	12.91	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.79	3.80	3.79	3.84	3.84	2.69	2.73	2.69	2.62	2.70	12.53	12.42	12.56	12.98	12.67	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.05	3.03	3.03	3.06	3.06	2.84	2.85	2.84	2.82	2.85	9.63	9.55	9.58	9.71	9.64	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.68	3.65	3.67	3.72	3.70	2.77	2.82	2.78	2.75	2.79	11.90	11.60	11.82	12.09	11.87	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	3.98	3.96	4.00	4.03	4.00	2.58	2.61	2.53	2.53	2.57	13.63	13.41	13.88	13.96	13.73	D	C	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.57	4.58	4.57	4.62	4.57	3.01	2.95	2.84	2.84	2.80	13.67	13.95	14.43	14.61	14.61	A	D	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.21	4.22	4.24	4.31	4.29	2.80	2.83	2.78	2.70	2.72	13.47	13.40	13.66	14.22	14.09	D	D	D	D	D
21	住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること	3.99	3.98	3.92	-	-	3.00	3.04	2.98	-	-	11.99	11.77	11.87	-	-	A	A	B	-	-
22	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.03	4.01	3.99	4.13	4.10	2.88	2.90	2.88	2.82	2.84	12.56	12.44	12.48	13.14	12.96	D	D	D	D	D
23	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.31	4.29	4.26	4.40	4.34	2.97	2.98	2.92	2.87	2.89	13.04	12.97	13.11	13.75	13.51	A	A	D	D	D
24	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.16	4.14	4.12	4.21	4.18	2.82	2.83	2.80	2.74	2.77	13.22	13.13	13.20	13.72	13.50	D	D	D	D	D
25	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.18	4.15	4.15	4.22	4.19	3.04	3.04	2.98	2.95	2.96	12.40	12.28	12.54	12.87	12.75	A	A	A	A	A
26	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.05	4.03	4.06	4.03	4.01	2.97	2.99	2.92	2.94	2.96	12.26	12.14	12.50	12.33	12.19	A	A	D	A	A
27	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.92	3.91	3.90	3.92	3.92	3.21	3.26	3.19	3.16	3.17	10.95	10.74	10.97	11.14	11.09	B	B	B	B	B
28	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.71	3.68	3.67	3.75	3.74	2.89	2.89	2.86	2.88	2.88	11.54	11.44	11.52	11.70	11.69	C	C	C	C	C
29	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.95	3.86	3.84	3.95	3.90	3.26	3.26	3.15	3.24	3.20	10.82	10.56	10.96	10.88	10.90	B	B	B	B	B
30	失業の不安がなくなること	4.15	4.16	4.22	4.26	4.24	2.82	2.81	2.73	2.70	2.68	13.18	13.29	13.82	14.07	14.07	D	D	D	D	D
31	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	3.90	3.88	3.93	3.94	3.91	3.00	3.00	2.90	2.91	2.89	11.69	11.64	12.18	12.16	12.17	B	B	C	B	C
32	県内で買いたいものが販売されていること	3.80	3.79	3.81	3.76	3.77	2.99	2.99	2.94	2.98	2.98	11.43	11.42	11.67	11.37	11.40	B	B	B	B	B
33	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	3.95	3.96	4.03	4.03	4.03	2.71	2.67	2.59	2.59	2.59	13.01	13.18	13.72	13.74	13.76	C	C	D	D	D

(注) 「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページのA～Dの象限に対応している。
 網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの（C象限・D象限）であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの（D象限）、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。
 なお、「-」はその年度において未調査のため、数値がないことを示している。

(2) 地域別

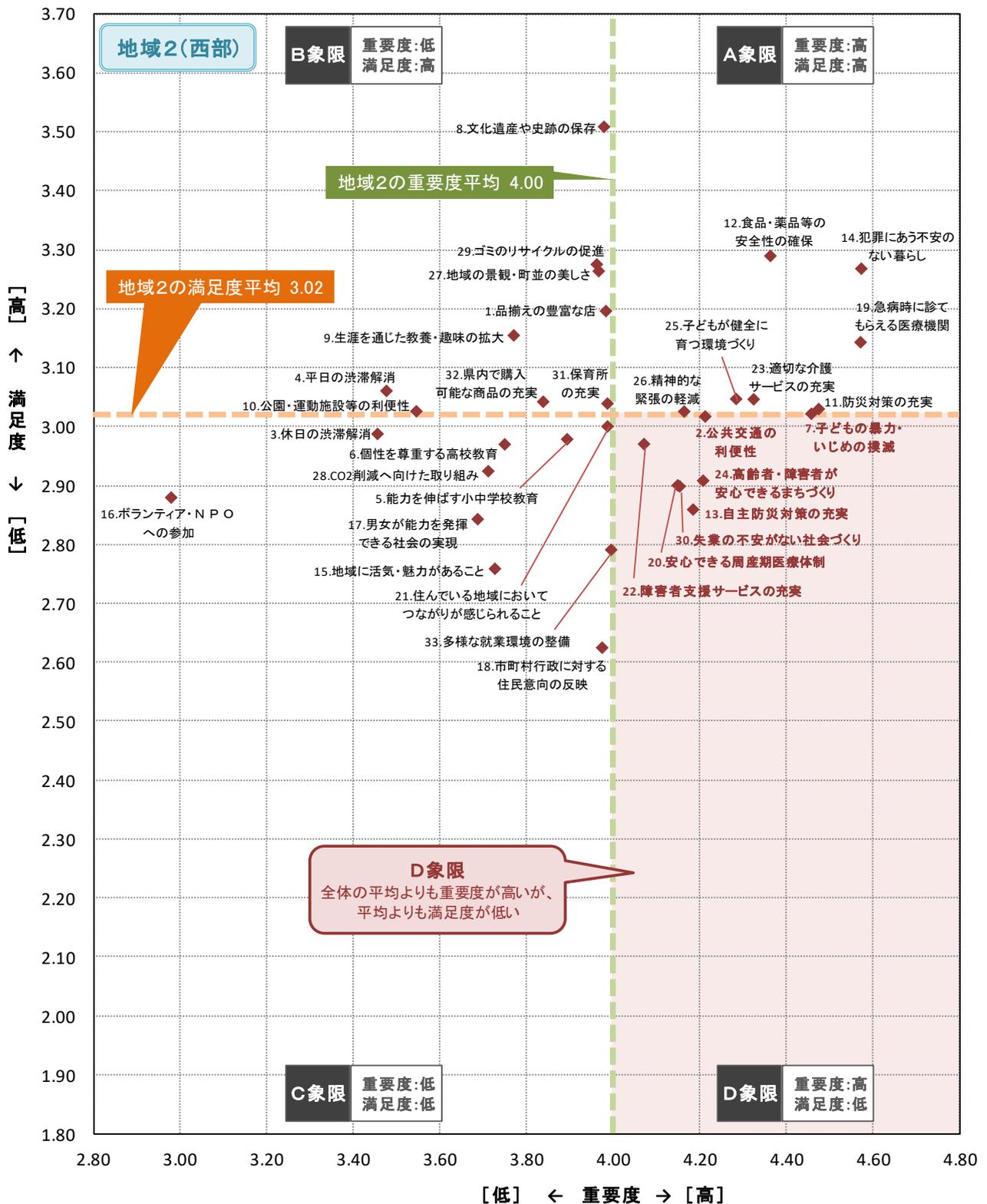
①地域1（北部）

- 『地域1（北部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「27. 地域の景観・町並の美しさ」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



②地域2（西部）

- 『地域2(西部)』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」が最も高く、次いで「19. 急病時に診てもらえる医療機関」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「12. 食品・薬品等の安全性の確保」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。

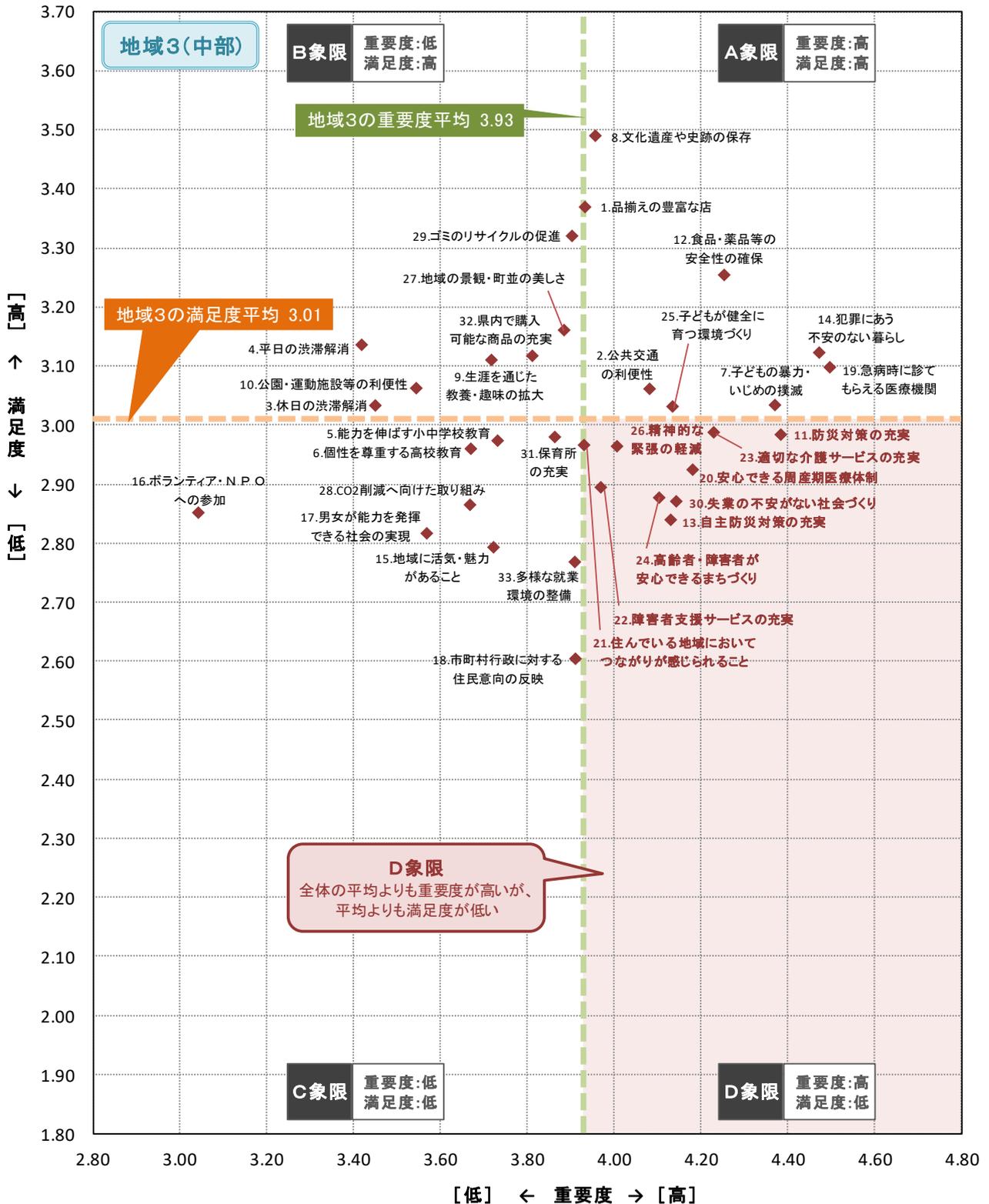


③地域3（中部）

■『地域3(中部)』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」、「13. 自主防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

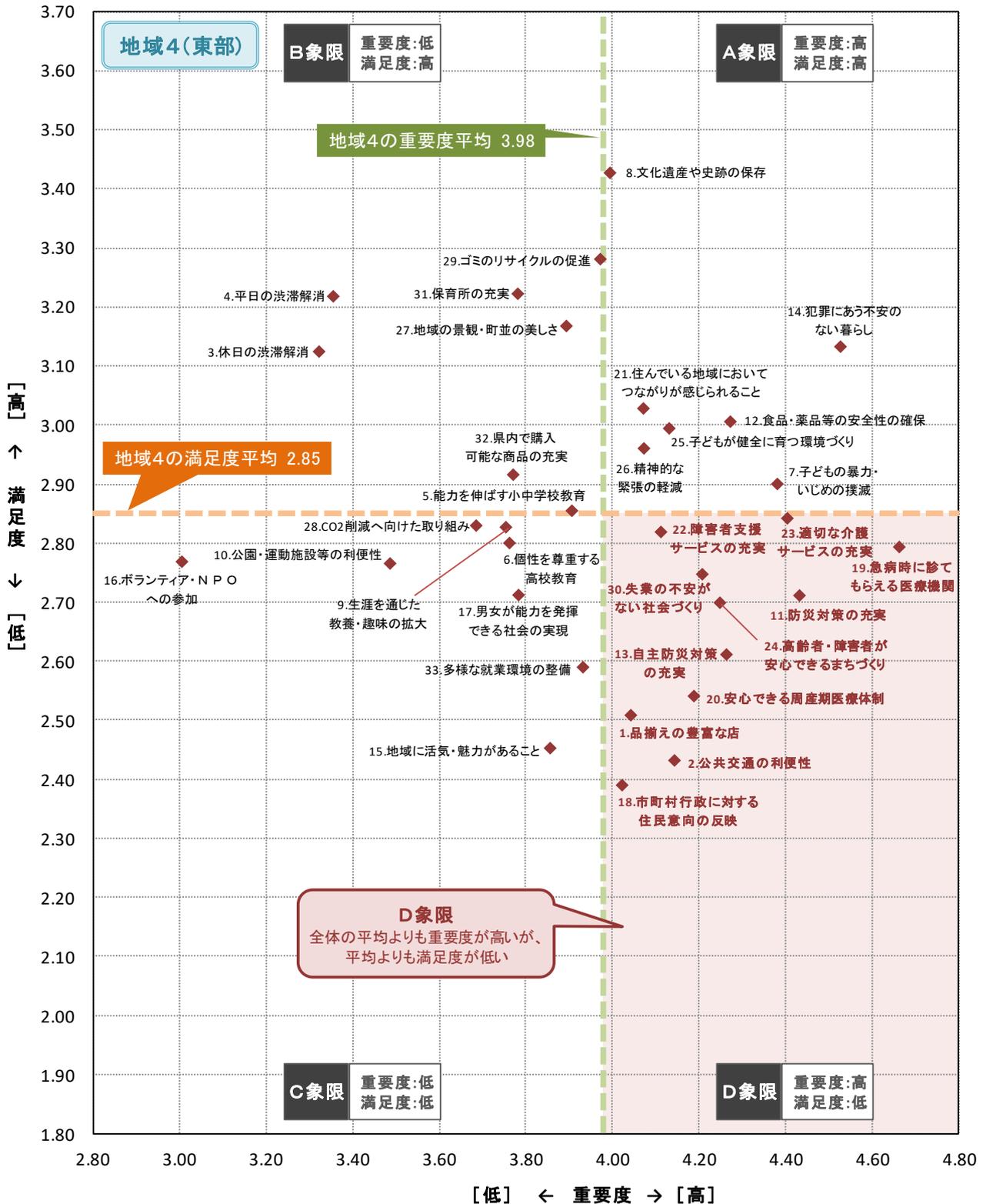


④地域4（東部）

■『地域4（東部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「2. 公共交通の利便性」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。

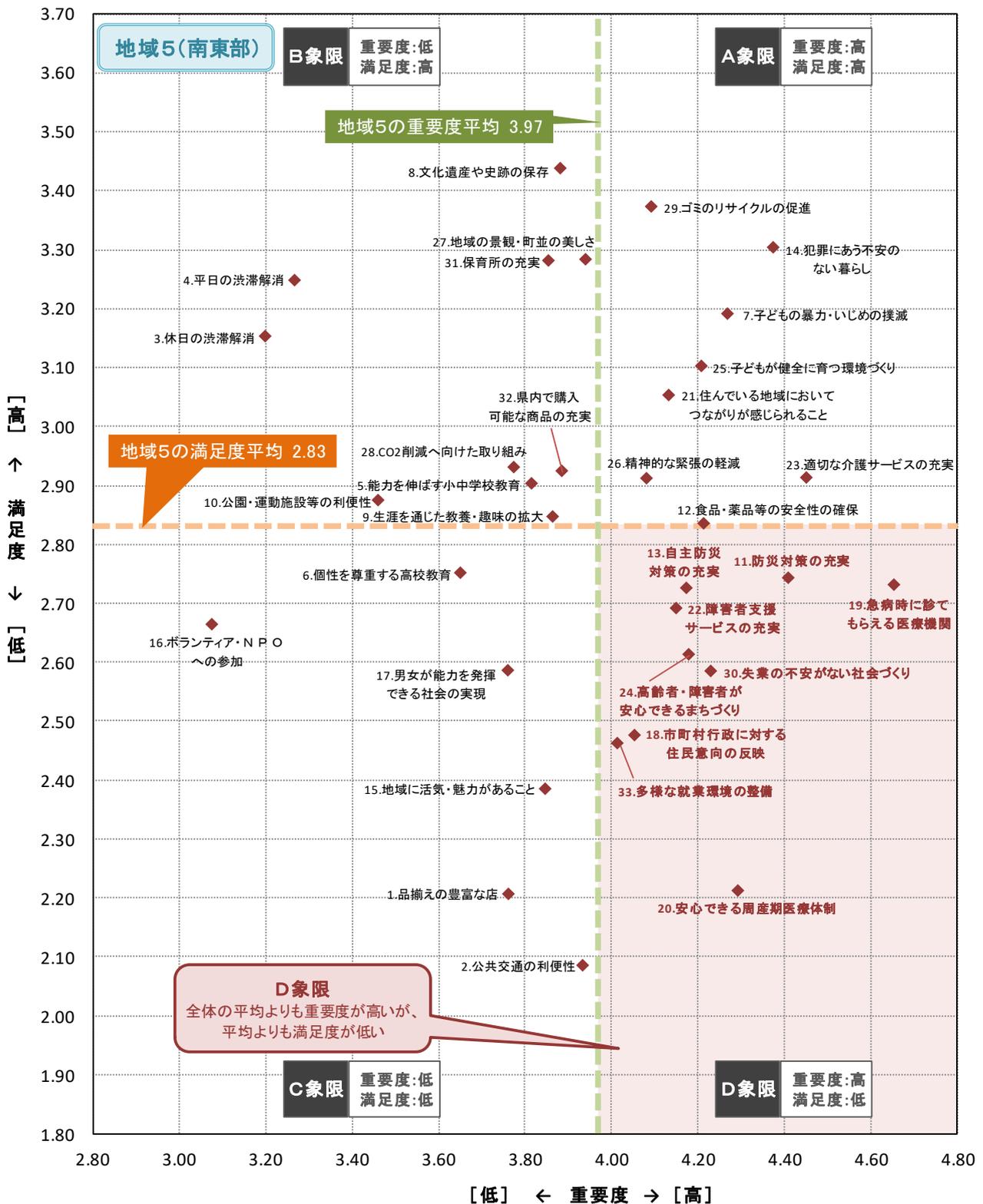
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「2. 公共交通の利便性」となっています。



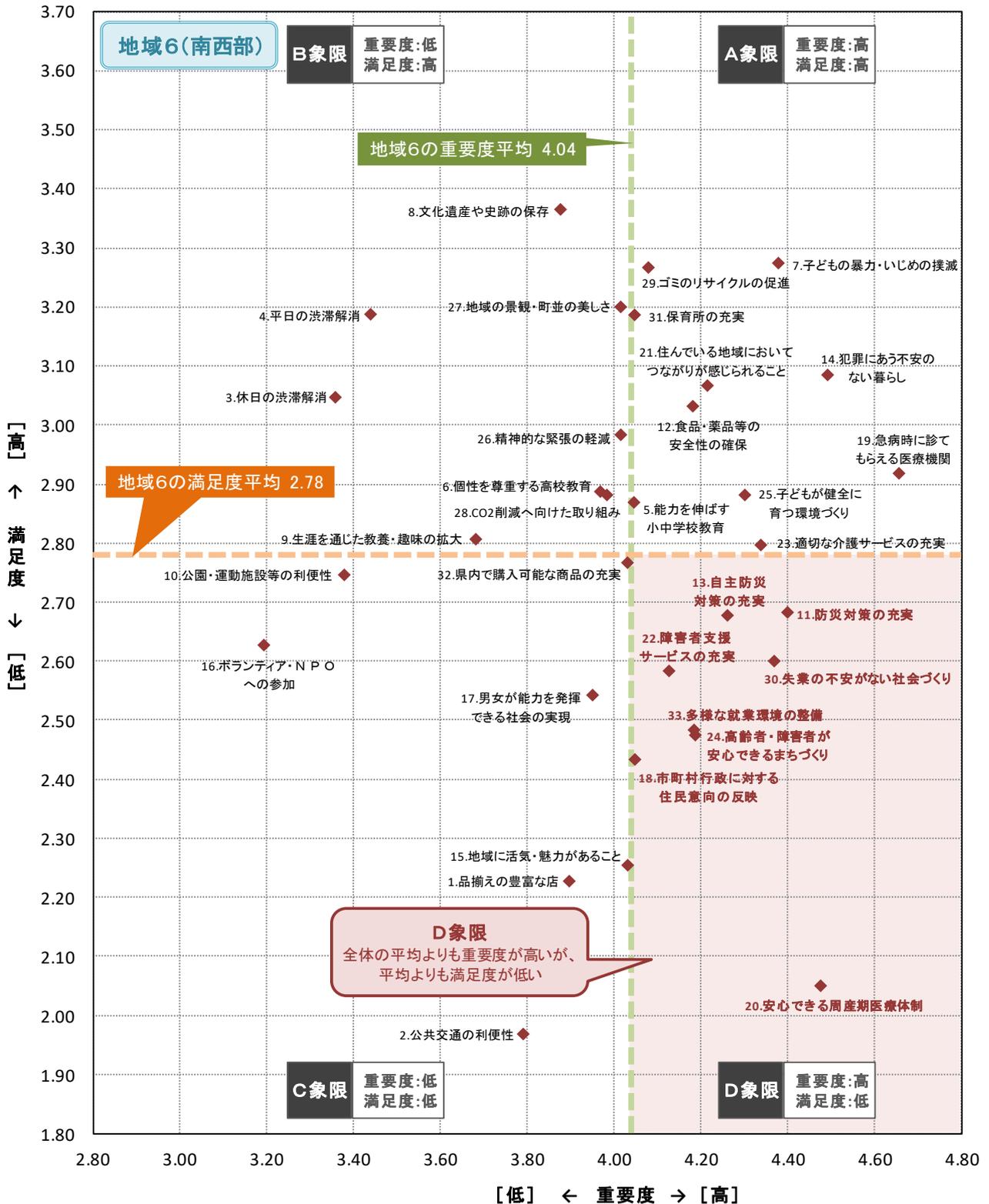
⑤地域5（南東部）

- 『地域5（南東部）』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「23. 適切な介護サービスの充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



⑥地域6（南西部）

- 『地域6(南西部)』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「15. 地域に活気・魅力があること」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「20. 安心できる周産期医療体制」となっています。

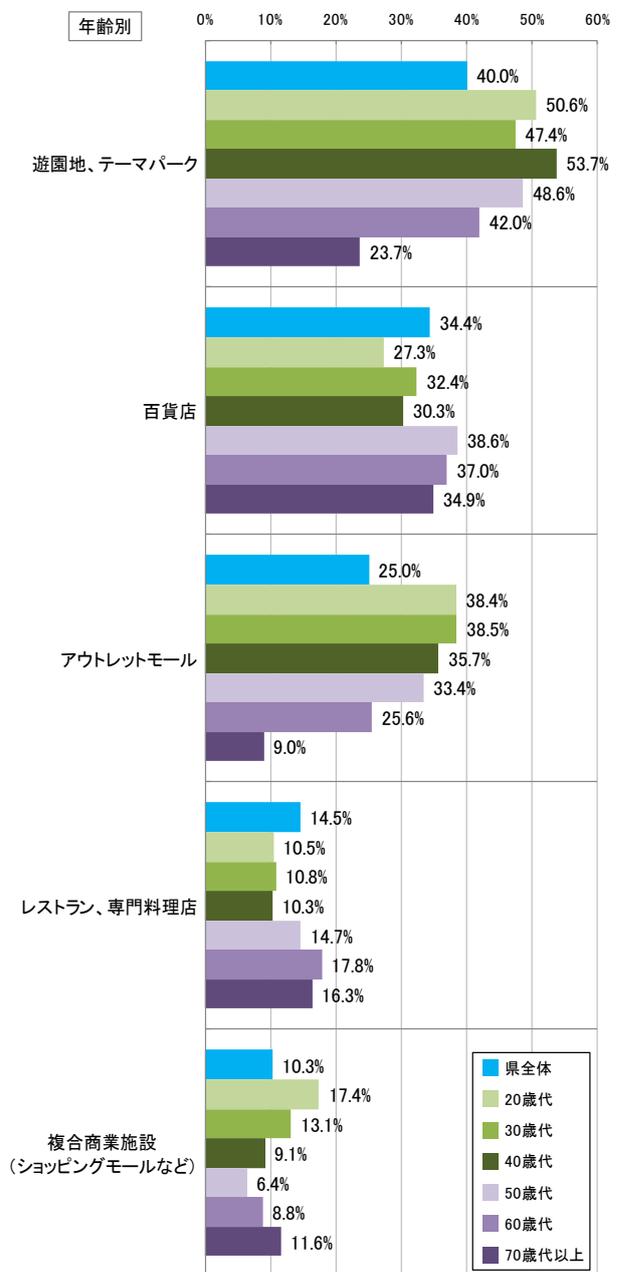
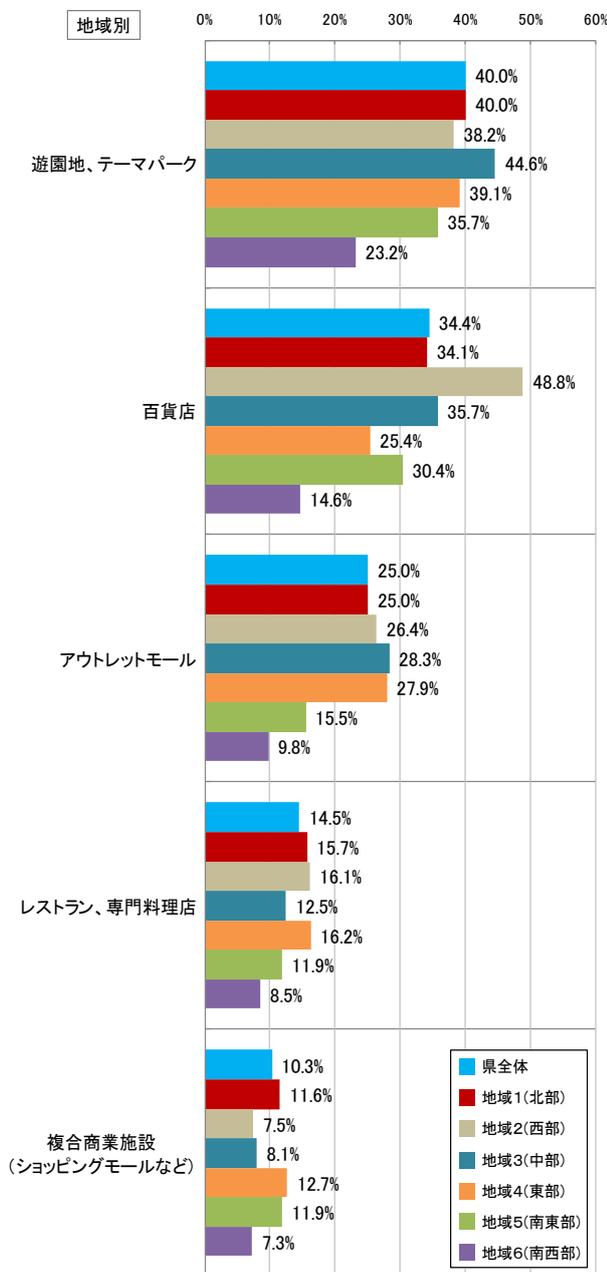


3～11. 県民の生活に関する意識やニーズについて

3. 産業・雇用について

(1) 県外で利用することが多い商業施設(問12 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

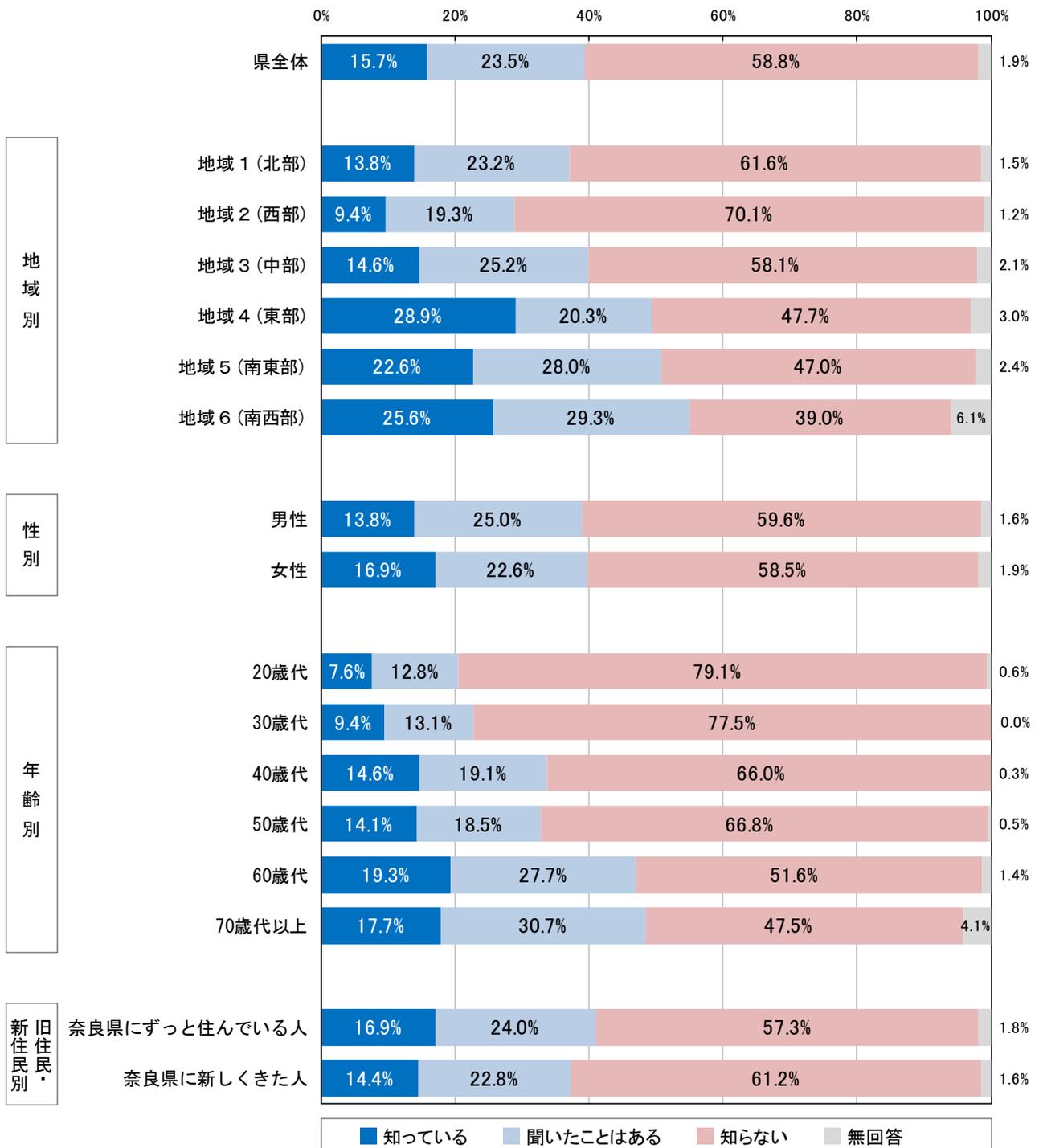
- 県内には少ないので県外で利用することが多い商業施設について尋ねたところ、「遊園地、テーマパーク」(40.0%)が最も多く、次いで「百貨店」(34.4%)、「アウトレットモール」(25.0%)、「レストラン、専門料理店」(14.5%)、「複合商業施設(ショッピングモールなど)」(10.3%)となっています。
- 「遊園地、テーマパーク」と答えた人は、地域別では『地域3(中部)』、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「百貨店」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「アウトレットモール」と答えた人は、地域別では『地域3(中部)』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「レストラン、専門料理店」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「複合商業施設(ショッピングモールなど)」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。



(2) 県産生薬や漢方薬について

① 県が優良な生薬の栽培地であることの認知状況 (問 15)

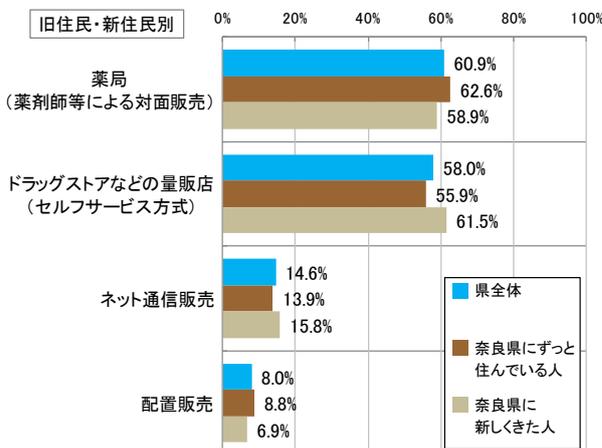
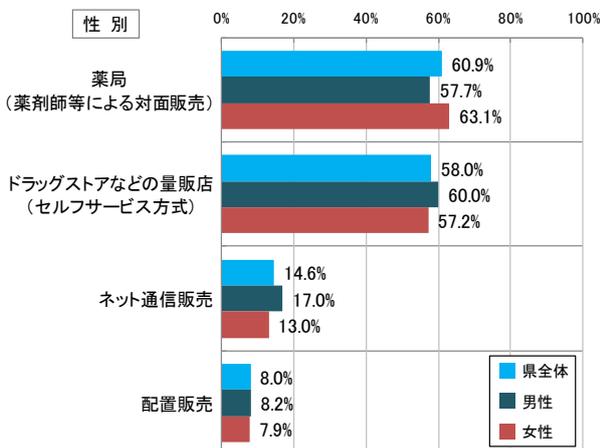
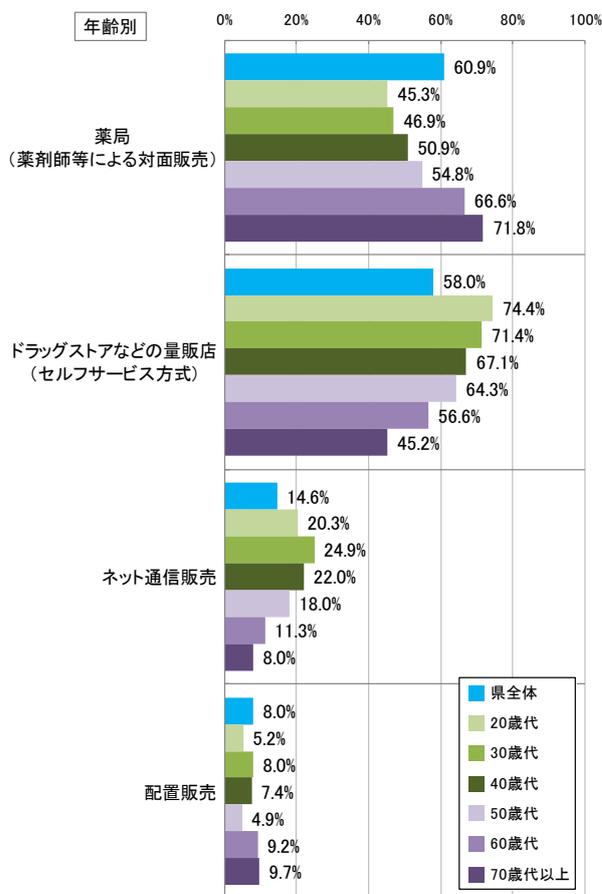
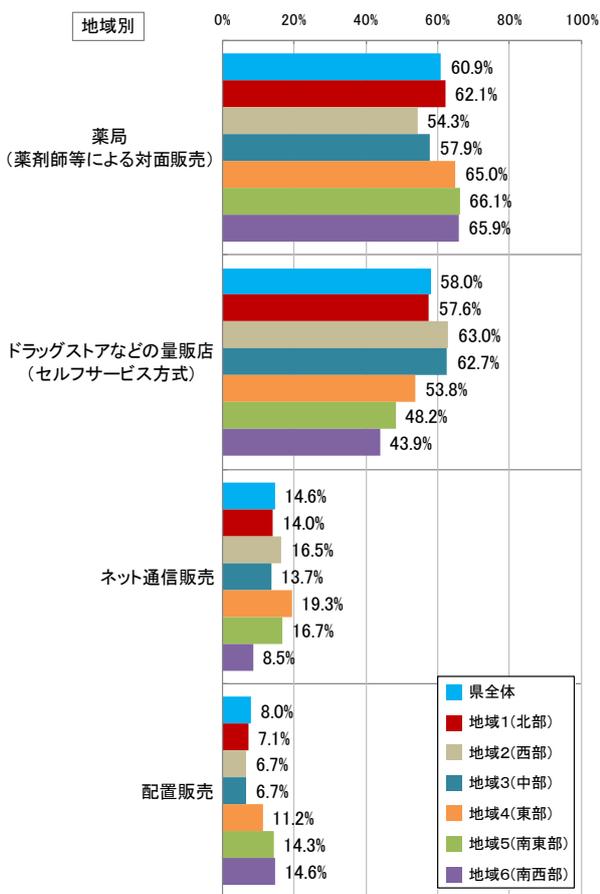
- 県が優良な生薬の栽培地であることの認知状況については、「知っている」または「聞いたことはある」が 39.3%となっています。
- 認知度(「知っている」+「聞いたことはある」)を地域別にみると、『地域6(南西部)』(54.9%)が最も多く、次いで『地域5(南東部)』(50.6%)、『地域4(東部)』(49.2%)となっています。一方、『地域2(西部)』(28.7%)では少なくなっています。
- 認知度を性別にみると、『女性』(39.6%)の方が、『男性』(38.8%)より0.7ポイント多くなっています。
- 認知度を年齢別にみると、『70歳代以上』(48.4%)が最も多く、次いで『60歳代』(46.9%)、『40歳代』(33.7%)となっています。一方、『20歳代』(20.3%)では少なくなっています。
- 認知度を旧住民・新住民別にみると、『奈良県にずっと住んでいる人』(40.9%)の方が、『奈良県に新しくきた人』(37.2%)より3.7ポイント多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

②県産生薬・これらを活用した漢方薬の購入希望場所 (問 16 複数回答 「その他」と無回答を除く項目を掲載)

- 県産生薬・これらを活用した漢方薬の購入希望場所について尋ねたところ、「薬局(薬剤師等による対面販売)」(60.9%)が最も多く、次いで「ドラッグストアなどの量販店(セルフサービス方式)」(58.0%)、「ネット通信販売」(14.6%)、「配置販売」(8.0%)となっています。
- 「薬局(薬剤師等による対面販売)」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「ドラッグストアなどの量販店(セルフサービス方式)」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『20歳代』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 「ネット通信販売」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』、年齢別では『30歳代』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 「配置販売」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。



(3) 職場での働き方改革の状況

①自身の職場で働き方改革が進んでいると感じられるか (問19)

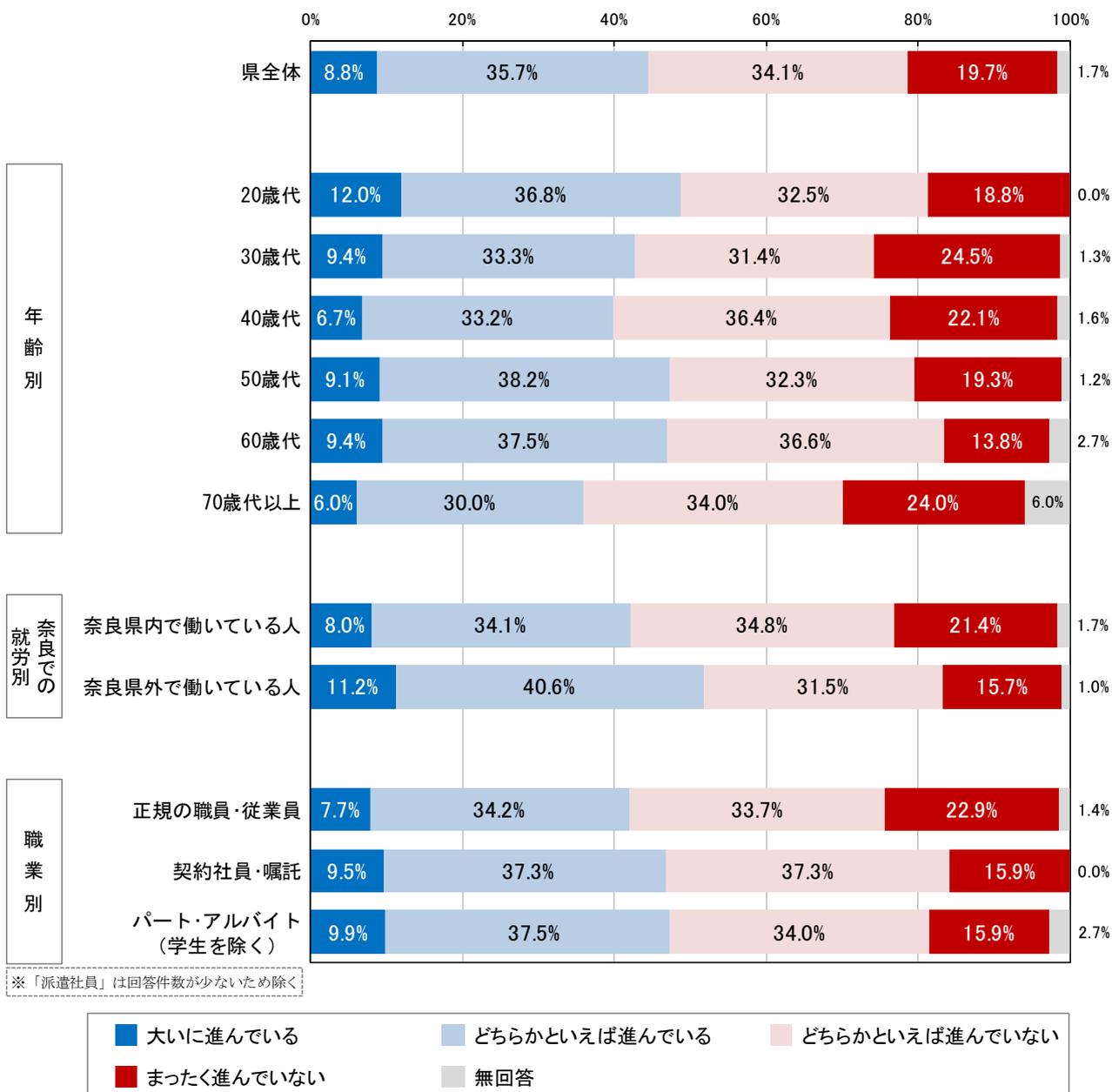
■自身の職場で働き方改革が進んでいると感じられるかについては、「進んでいる」(「大いに進んでいる」+「どちらかといえば進んでいる」)と感じている人は44.5%で、「進んでいない」(「どちらかといえば進んでいない」+「まったく進んでいない」)と感じている人は53.8%となっています。

*回答対象者(1,061件)は、職業が「正規の職員・従業員」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」、「パート・アルバイト(学生を除く)」の方のみ

■《進んでいる》と感じている人の割合を年齢別にみると、『20歳代』(48.7%)が最も多く、次いで『50歳代』(47.2%)、『60歳代』(46.9%)となっています。一方、《進んでいない》と感じている人は『40歳代』(58.5%)が最も多くなっています。

■《進んでいる》と感じている人の割合を奈良での就労別にみると、『奈良県外で働いている人』(51.7%)の方が、『奈良県内で働いている人』(42.1%)より9.7ポイント多くなっています。

■《進んでいる》と感じている人の割合を職業別にみると、『パート・アルバイト』(47.4%)が最も多く、次いで『契約社員・嘱託』(46.8%)となっています。一方、《進んでいない》と感じている人は『正規の職員・従業員』(56.6%)が最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

②働き方改革が進んでいると感じられる点・働き方改革を進めるために必要と感じられる点 (問 20 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

■《進んでいる》と答えた人にそう感じられる点について尋ねたところ、「残業時間が短くなる・休日出勤が少なくなる」(55.5%)が最も多く、次いで「有給休暇が取りやすくなる」(47.7%)、「職場の雰囲気が良くなり、自身のモチベーションが上がる」(21.2%)、「仕事の持ち帰りがなくなる」(16.5%)、「重要度の低い業務や無駄な作業が少なくなる」(16.3%)となっています。

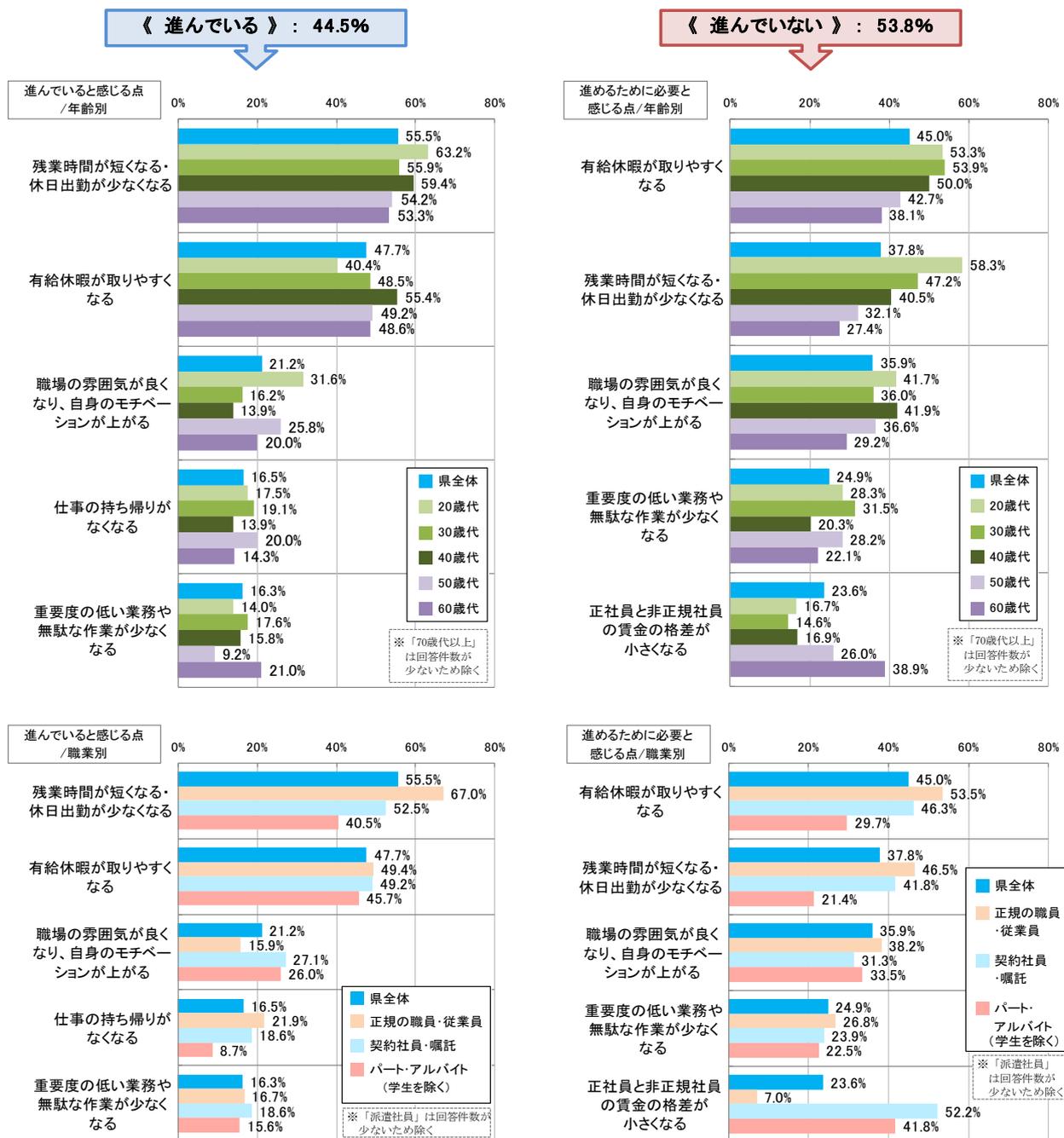
■年齢別にみると、すべての年代で「残業時間が短くなる・休日出勤が少なくなる」が最も多くなっています。

■職業別にみると、『正規の職員・従業員』、『契約社員・嘱託』では「残業時間が短くなる・休日出勤が少なくなる」、「パート・アルバイト」では「有給休暇が取りやすくなる」が最も多くなっています。

■《進んでいない》と答えた人に進めるために必要と感じられる点について尋ねたところ、「有給休暇が取りやすくなる」(45.0%)が最も多く、次いで「残業時間が短くなる・休日出勤が少なくなる」(37.8%)、「職場の雰囲気が良くなり、自身のモチベーションが上がる」(35.9%)、「重要度の低い業務や無駄な作業が少なくなる」(24.9%)、「正社員と非正規社員の賃金の格差が小さくなる」(23.6%)となっています。

■年齢別にみると、30～50歳代では「有給休暇が取りやすくなる」、『20歳代』では「残業時間が短くなる・休日出勤が少なくなる」、『60歳代』では「正社員と非正規社員の賃金の格差が小さくなる」が最も多くなっています。

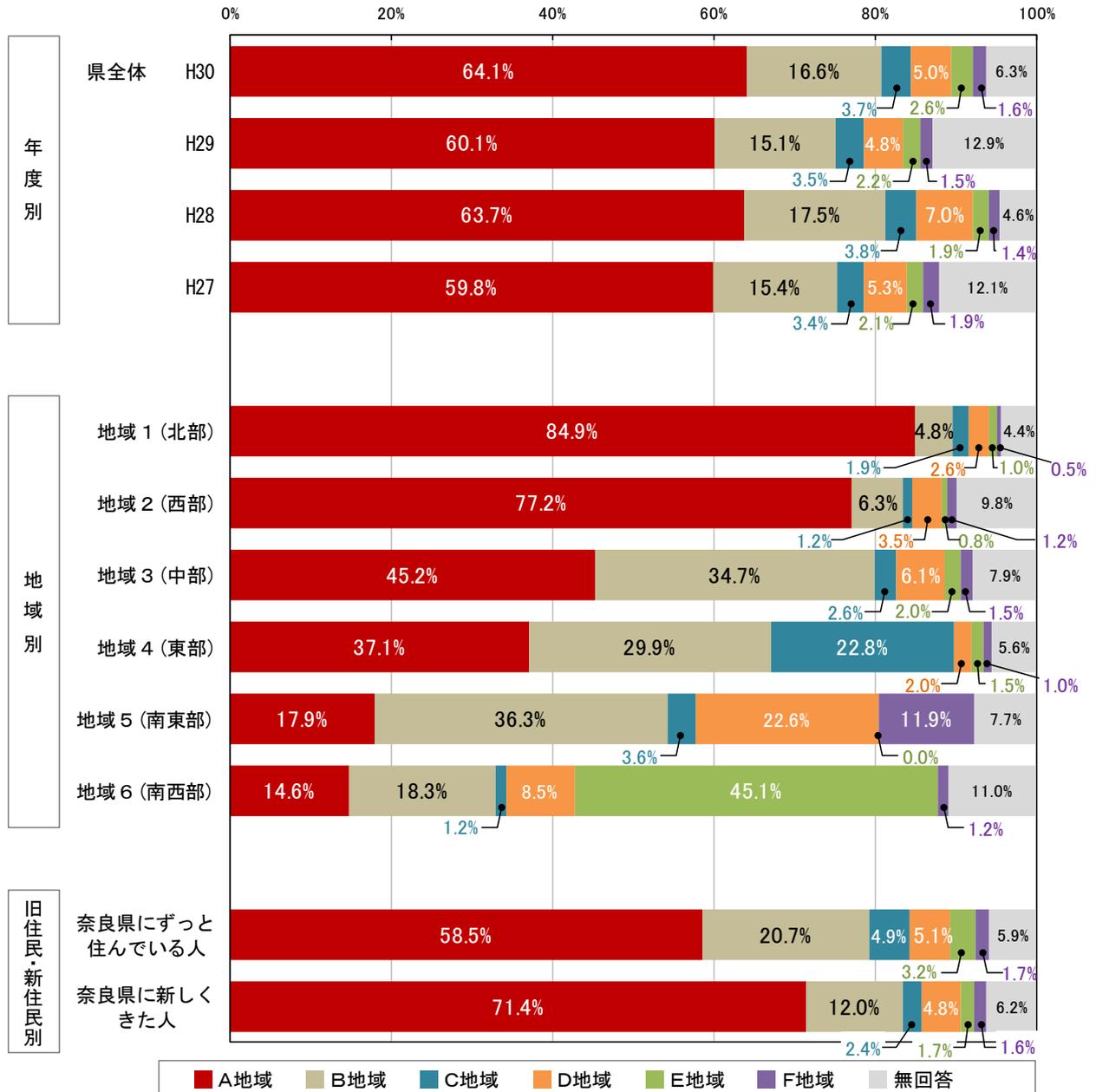
■職業別にみると、『契約社員・嘱託』、『パート・アルバイト』では「正社員と非正規社員の賃金の格差が小さくなる」、『正規の職員・従業員』では「有給休暇が取りやすくなる」が最も多くなっています。



4. 観光について

(1) 知人等をもてなすために観光・レクリエーションに出かける地域 (問 21)

- 知人等をもてなすために観光・レクリエーションに出かける地域について尋ねたところ、「A地域」(64.1%)が最も多く、次いで「B地域」(16.6%)となっています。
- 平成 27～29 年度と比較すると、割合の差はありますが、各年度ともに「A地域」、「B地域」、「D地域」の順で多くなっています。
- 地域別にみると、『地域1(北部)』、『地域2(西部)』、『地域3(中部)』、『地域4(東部)』では「A地域」、『地域5(南東部)』では「B地域」、『地域6(南西部)』では「E地域」が最も多くなっています。
- 旧住民・新住民別にみると、旧住民・新住民ともに「A地域」が最も多くなっていますが、『奈良県に新しくきた人』(71.4%)が『奈良県にずっと住んでいる人』(58.5%)と比べ多くなっています。一方、「B地域」「C地域」「D地域」「E地域」「F地域」については、『奈良県にずっと住んでいる人』の方が、『奈良県に新しくきた人』と比べ多くなっています。

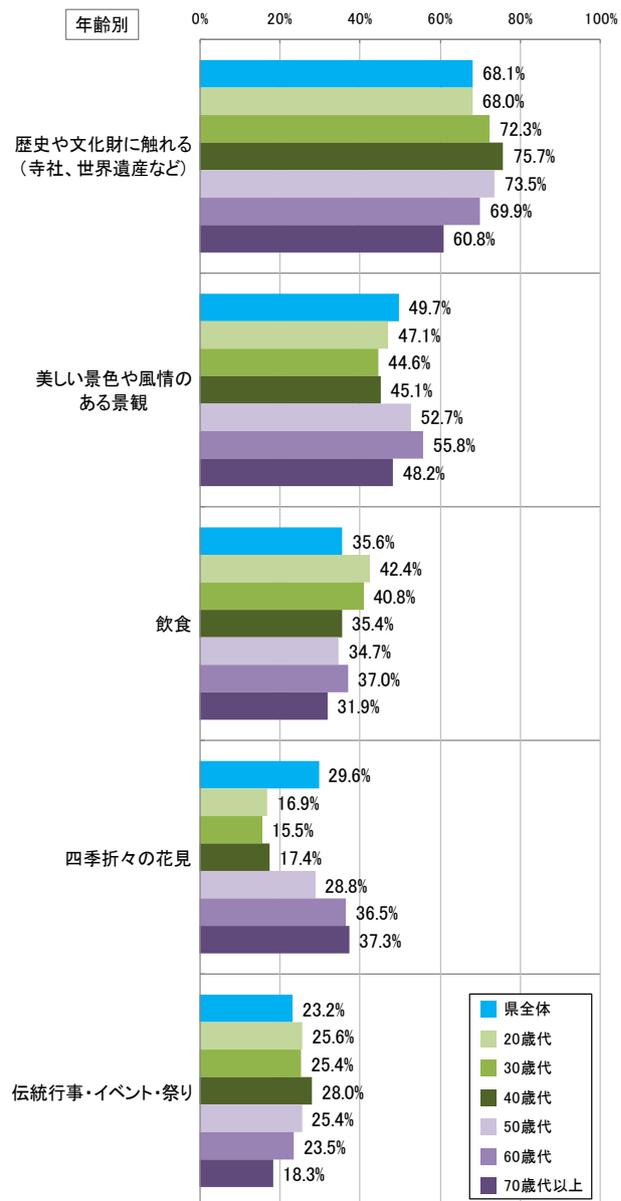
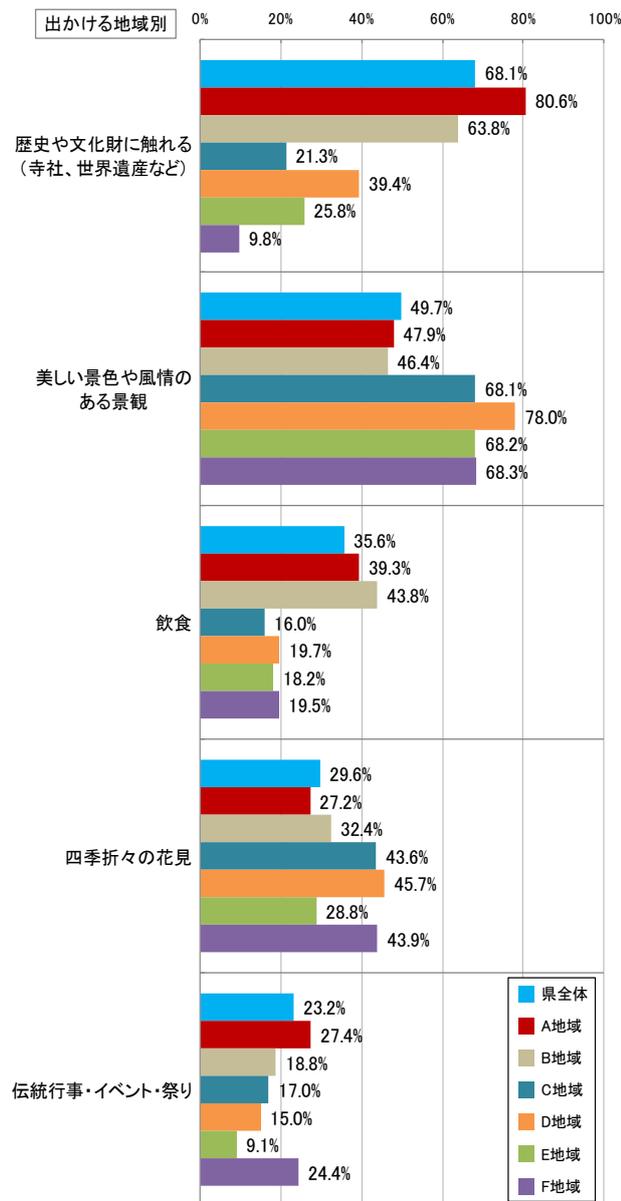


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

- A地域:** 奈良市、生駒市、天理市、大和郡山市、香芝市、平群町、三郷町、王寺町、斑鳩町、広陵町、山添村、安堵町、上牧町、河合町
- B地域:** 大和高田市、橿原市、葛城市、桜井市、御所市、明日香村、高取町、川西町、田原本町、三宅町
- C地域:** 宇陀市、曾爾村、御杖村、東吉野村
- D地域:** 吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村
- E地域:** 五條市、野迫川村、十津川村
- F地域:** 川上村、上北山村、下北山村

(2) 問 21 の地域へ観光・レクリエーションに出かける目的
(問 22 4つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 問 21 の地域へ観光・レクリエーションに出かける目的について尋ねたところ、「歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)」(68.1%)が最も多く、次いで「美しい景色や風情のある景観」(49.7%)、「飲食」(35.6%)、「四季折々の花見」(29.6%)、「伝統行事・イベント・祭り」(23.2%)となっています。
- 「歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)」、「伝統行事・イベント・祭り」と答えた人については、出かける地域別では『A地域』、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「美しい景色や風情のある景観」と答えた人については、出かける地域別では『D地域』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「飲食」と答えた人については、出かける地域別では『B地域』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「四季折々の花見」と答えた人については、出かける地域別では『D地域』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。

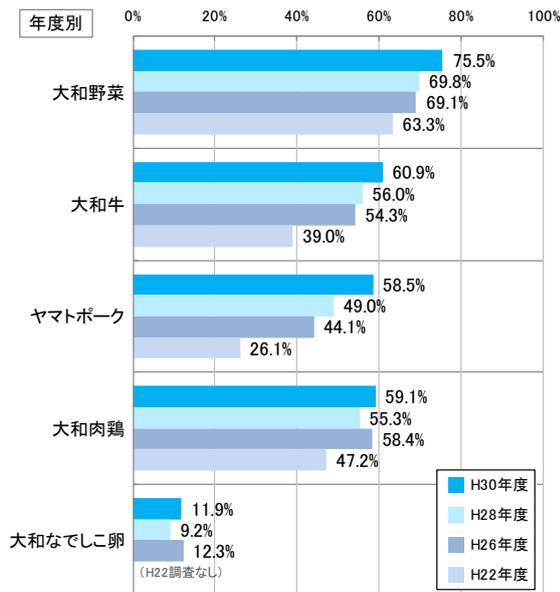


A地域: 奈良市、生駒市、天理市、大和郡山市、香芝市、平群町、三郷町、王寺町、斑鳩町、広陵町、山添村、安堵町、上牧町、河合町
B地域: 大和高田市、橿原市、葛城市、桜井市、御所市、明日香村、高取町、川西町、田原本町、三宅町
C地域: 宇陀市、曾爾村、御杖村、東吉野村
D地域: 吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村
E地域: 五條市、野迫川村、十津川村
F地域: 川上村、上北山村、下北山村

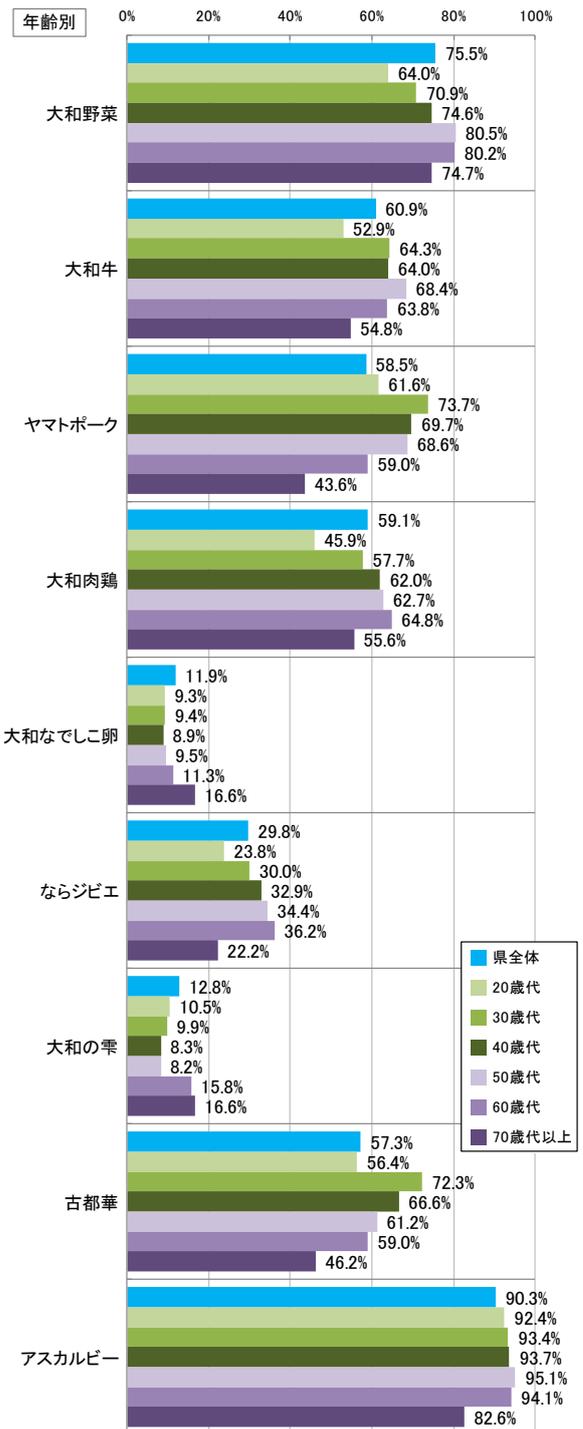
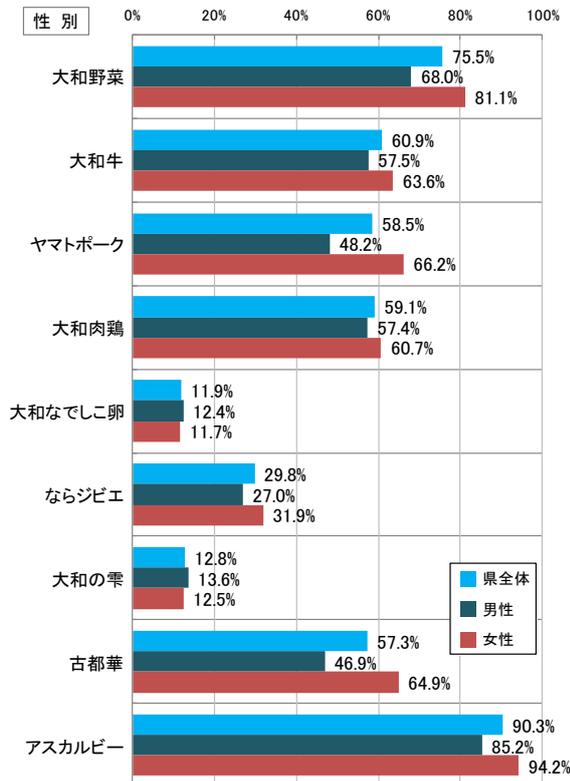
5. 農業・畜産業について

(1) 県内産食材の認知度 (問 23 年度別は過去調査のある5項目を掲載)

- 県内産食材の認知度については、「アスカルビー」(90.3%)が最も高く、次いで「大和野菜」(75.5%)、「大和牛」(60.9%)、「大和肉鶏」(59.1%)、「ヤマトポーク」(58.5%)となっています。一方、「大和なでしこ卵」(11.9%)が最も低くなっています。
- 平成 28 年度と比較すると、過去調査のある5つの食材すべての認知度が増加しています。
- 県内産食材の認知度を性別にみると、「大和なでしこ卵」、「大和の雫」については『女性』よりも『男性』の方が高く、他の食材については『男性』よりも『女性』の方が高くなっています。
- 県内産食材の認知度を年齢別にみると、「ヤマトポーク」、「古都華」については『30 歳代』、「大和野菜」、「大和牛」、「アスカルビー」については『50 歳代』、「大和肉鶏」、「ならじピエ」については『60 歳代』、「大和なでしこ卵」、「大和の雫」については『70 歳代以上』が最も高くなっています。



※「ならじピエ」「大和の雫」「古都華」「アスカルビー」は過去調査なし



(2) 県内産食材の県内での購入又は飲食の有無 (問 24 年度別は過去調査のある5項目を掲載)

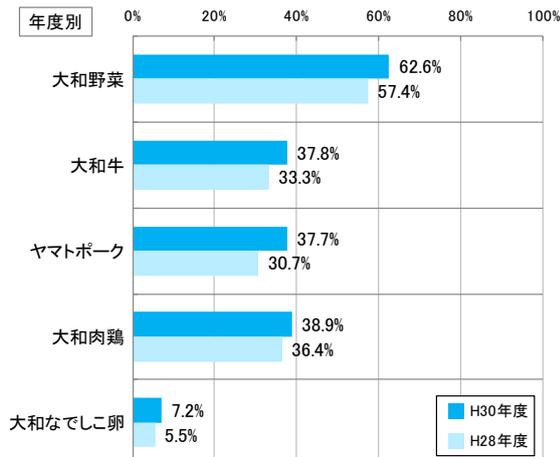
■ 県内産食材を県内で「購入又は飲食したことがある」と答えた割合は、「アスカルビー」(84.2%)が最も高く、次いで「大和野菜」(62.6%)、「古都華」(47.2%)、「大和肉鶏」(38.9%)、「大和牛」(37.8%)、「ヤマトポーク」(37.7%)となっています。一方、「大和の雫」(6.5%)が最も低くなっています。

* 問 23 で「知らない」と回答した人及び無回答の人を含む全有効回答件数に占める割合

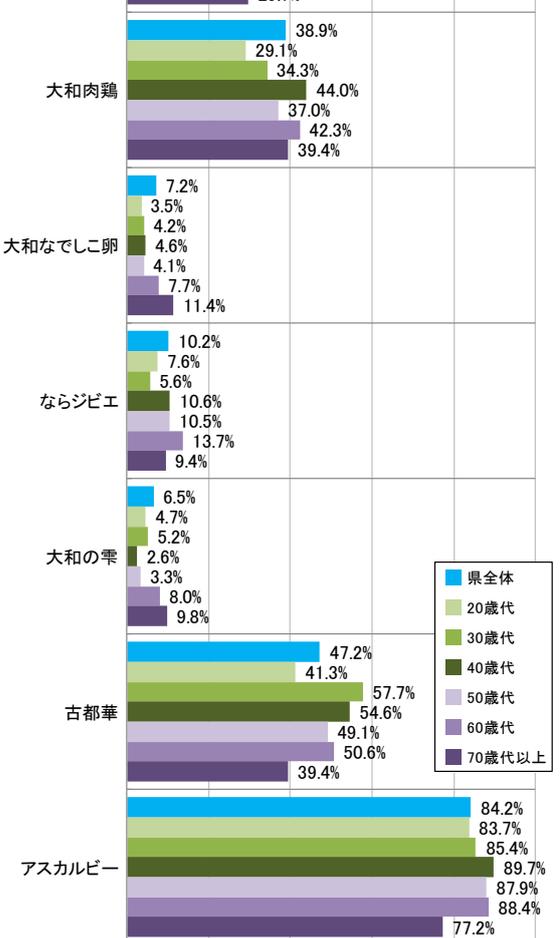
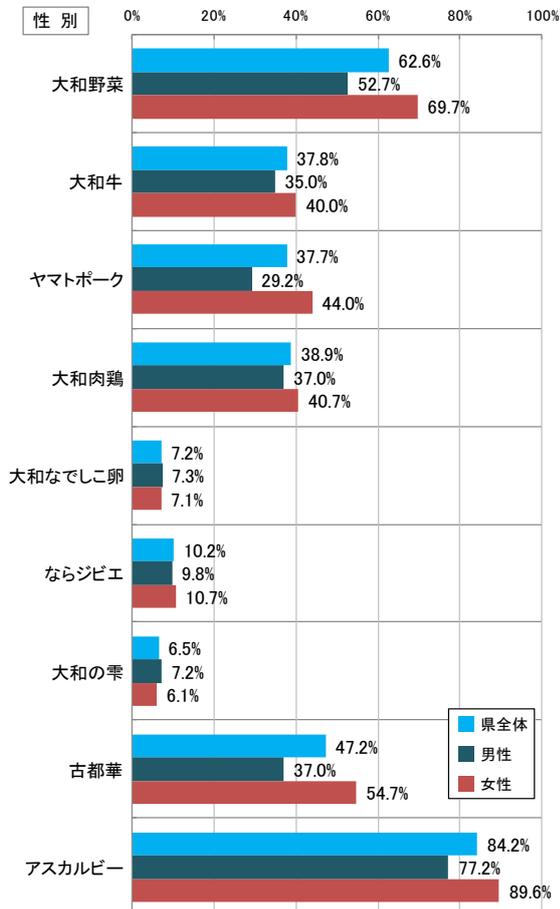
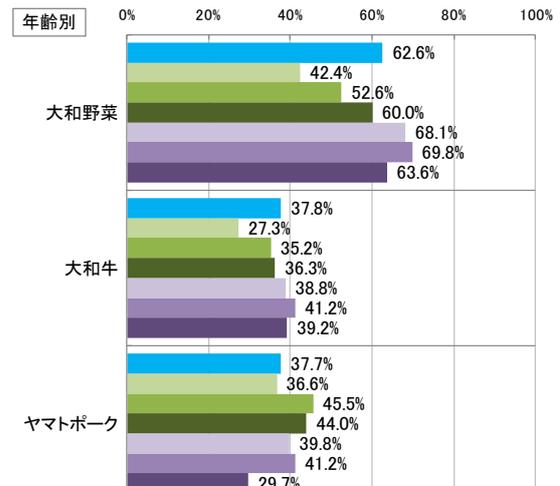
■ 平成 28 年度と比較すると、県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合は、過去調査のある5つの食材すべてについて増加しています。

■ 県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合を性別にみると、「大和なでしこ卵」、「大和の雫」については『女性』よりも『男性』の方が高く、他の食材については『男性』よりも『女性』の方が高くなっています。

■ 県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合を年齢別にみると、「ヤマトポーク」、「古都華」については『30 歳代』、「大和肉鶏」、「アスカルビー」については『40 歳代』、「大和野菜」、「大和牛」、「ならジビエ」については『60 歳代』、「大和なでしこ卵」、「大和の雫」については『70 歳代以上』が最も高くなっています。



※「ならジビエ」「大和の雫」「古都華」「アスカルビー」は過去調査なし



6. 文化振興について

(1) この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無 (問26)

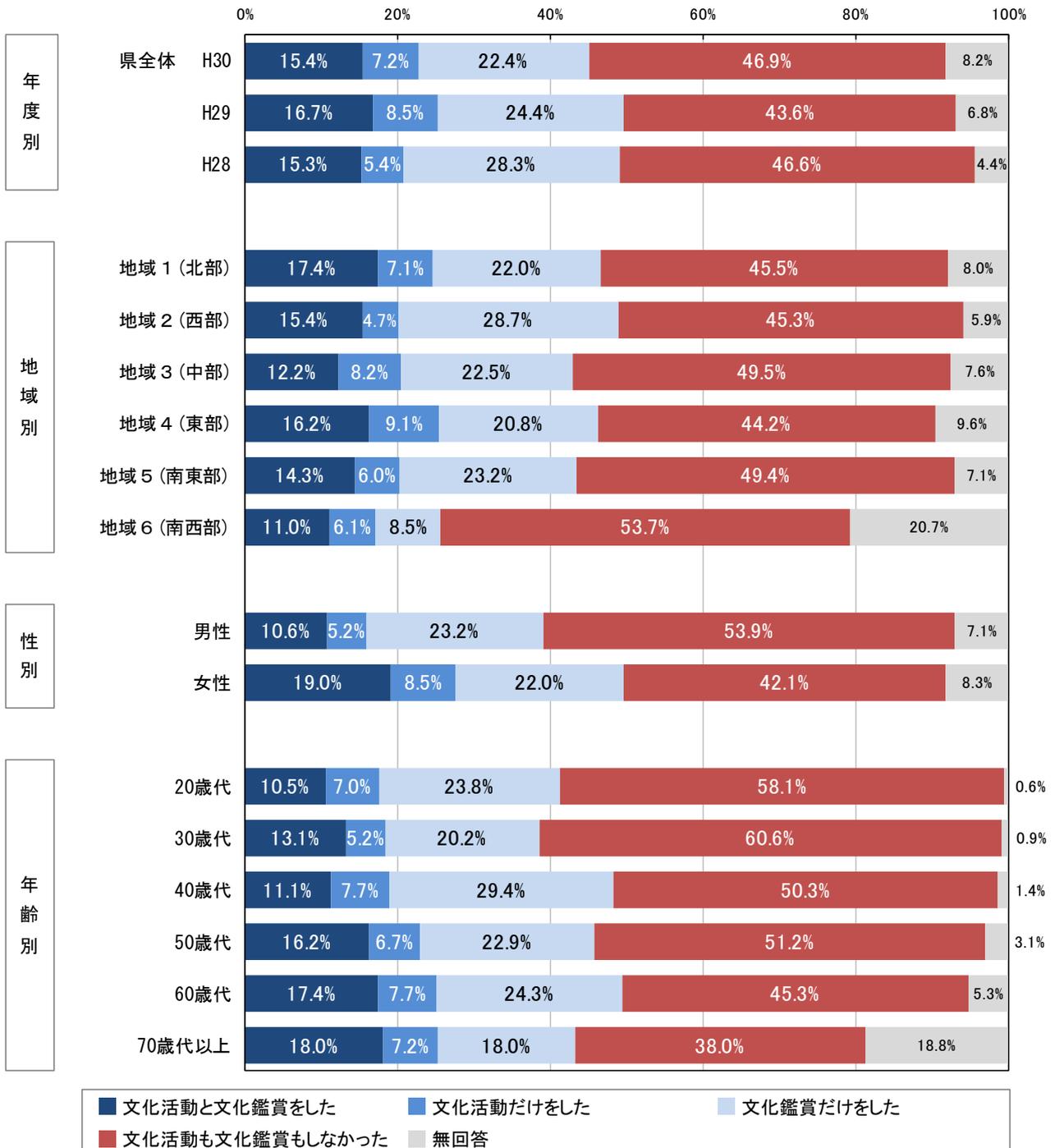
■この1年間の文化活動・文化鑑賞*の有無については、「文化活動または文化鑑賞をした人」(「文化活動と文化鑑賞をした」+「文化活動だけをした」+「文化鑑賞だけをした」)の割合は45.0%で、平成29年度(49.6%)と比べて4.6ポイント、平成28年度(49.0%)と比べて4.0ポイント減少しています。

〔*「文化活動」とは、習い事や趣味の他、楽器の演奏やダンスなど自ら主体的に行う活動全般をいいます。
「文化鑑賞」とは、公演・展覧会など鑑賞全般をいいます。(家庭内での音楽鑑賞等を除きます)〕

■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を地域別にみると、『地域2(西部)』(48.8%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(46.6%)となっています。一方、『地域6(南西部)』(25.6%)では2割台となっています。

■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を性別にみると、『女性』(49.6%)の方が、『男性』(39.0%)より10.6ポイント多くなっています。

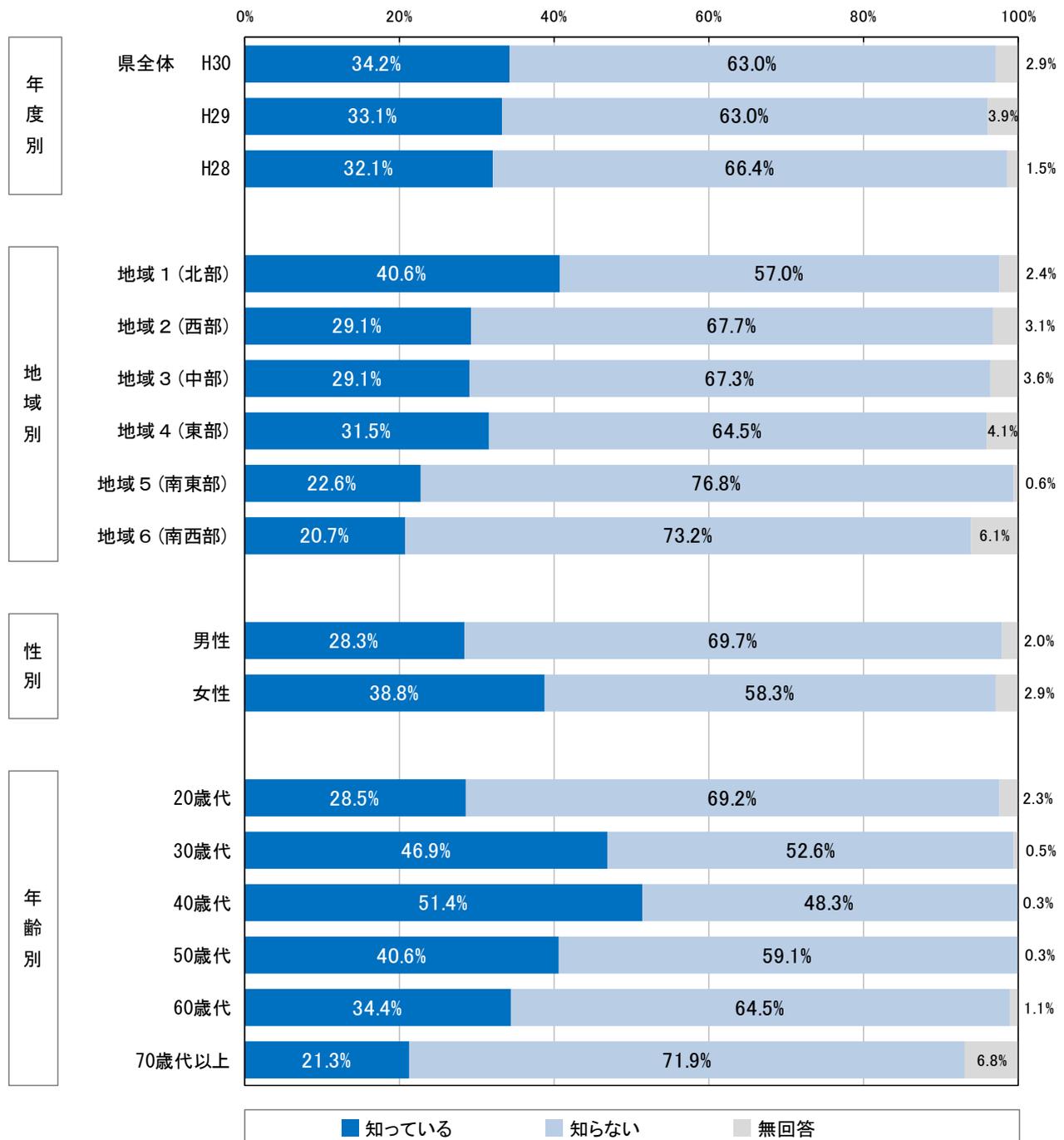
■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を年齢別にみると、『60歳代』(49.4%)が最も多く、次いで『40歳代』(48.3%)となっています。一方、「文化活動も文化鑑賞もしなかった」と答えた人は、『20歳代』(58.1%)と『30歳代』(60.6%)で約6割となっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

(2) 「ムジークフェストなら」の認知度 (問27)

- ムジークフェストなら 2017 の認知度については、「知らない」(63.0%)が「知っている」(34.2%)と比べ多くなっています。「知っている」(34.2%)と答えた人は、ゆるやかな増加傾向にあり、平成 29 年度(33.1%)と比べて 1.1 ポイント、平成 28 年度(32.1%)と比べて 2.1 ポイント増加しています。
- 「知っている」と答えた人を地域別にみると、『地域1(北部)』(40.6%)が最も多く、次いで『地域4(東部)』(31.5%)となっています。一方、『地域5(南東部)』(22.6%)と『地域6(南西部)』(20.7%)では少なくなっています。
- 「知っている」と答えた人を性別にみると、『女性』(38.8%)の方が、『男性』(28.3%)より 10.5 ポイント多くなっています。
- 「知っている」と答えた人を年齢別にみると、『40 歳代』(51.4%)が最も多く、次いで『30 歳代』(46.9%)、『50 歳代』(40.6%)となっています。一方、『70 歳代以上』(21.3%)では少なくなっています。



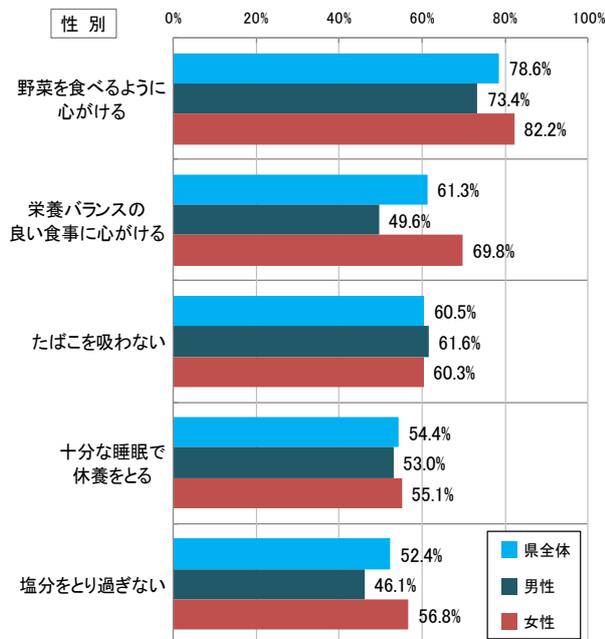
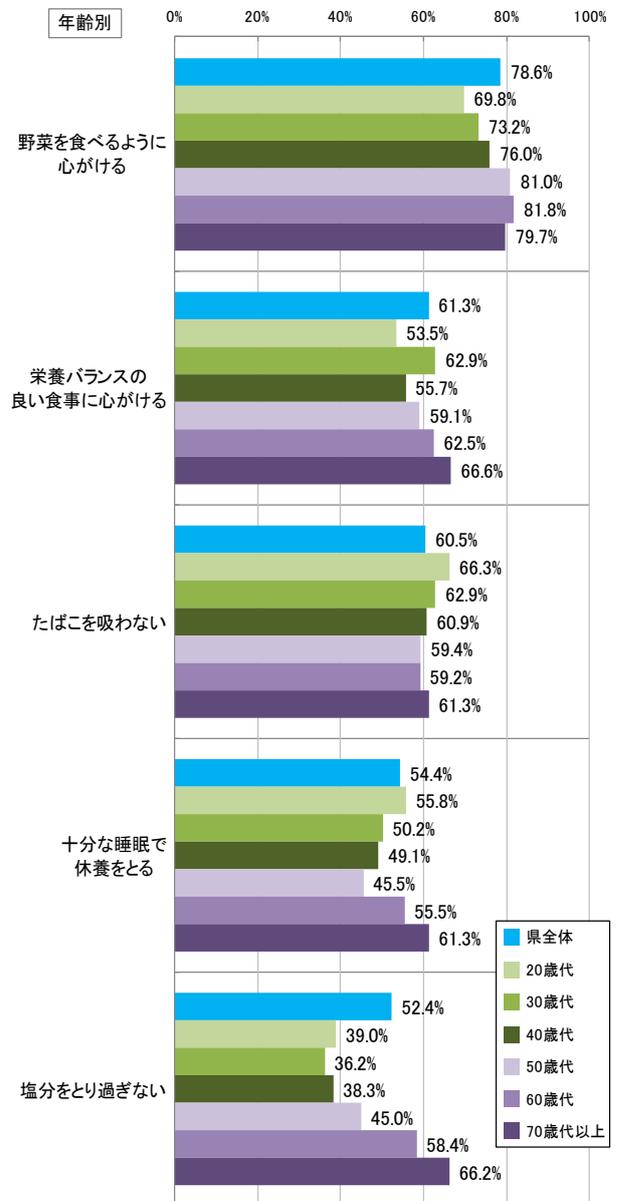
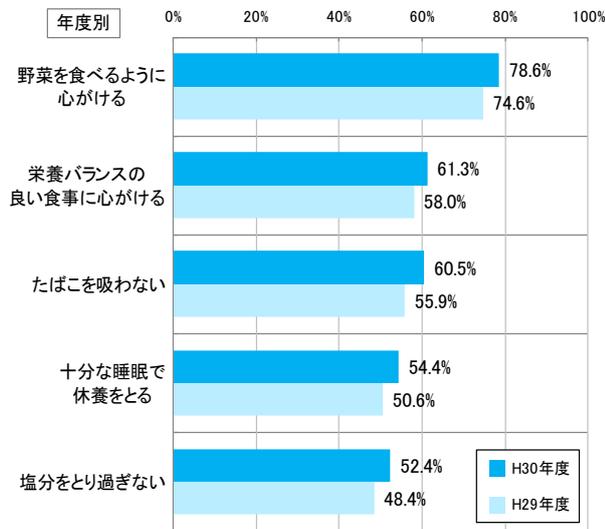
※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

7. 健康づくりについて

(1) 自らの健康づくりの取組状況及び今後の意向

①この1年間にした健康づくり（問29-① 複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- この1年間に自らの健康づくりのためにしたことは、県全体・男性・女性ともに「野菜を食べるように心がける」（県全体 78.6%）が最も多く、次いで、県全体と女性では「栄養バランスの良い食事に心がける」（県全体 61.3%）、男性では「たばこを吸わない」となっています。
- 平成29年度と比較すると、「たばこを吸わない」と答えた人が4.6ポイント増加するなど、上位5項目すべてで増加しています。
- 性別にみると、『女性』の方が『男性』より10ポイント以上多い項目が、「栄養バランスの良い食事に心がける」、「塩分をとり過ぎない」となっています。
- 年齢別にみると、すべての年代で「野菜を食べるように心がける」が最も多くなっています。「野菜を食べるように心がける」、「塩分をとり過ぎない」と答えた人は、概ね年代が高くなるほど多くなっています。一方、「たばこを吸わない」と答えた人は、『20歳代』が最も多くなっています。



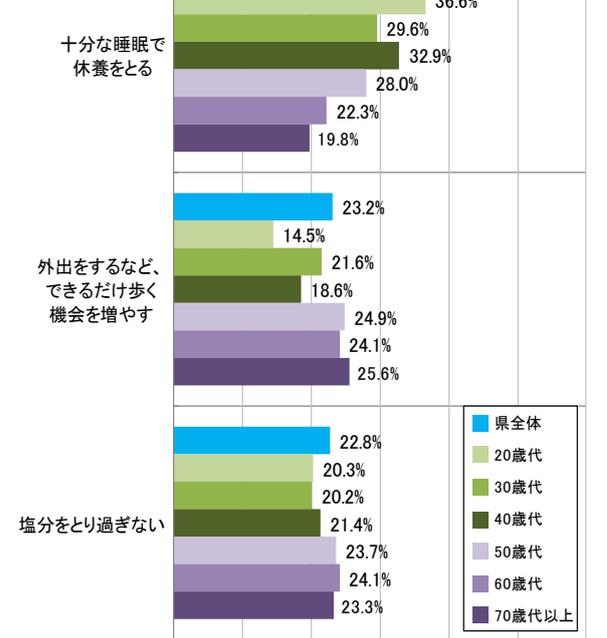
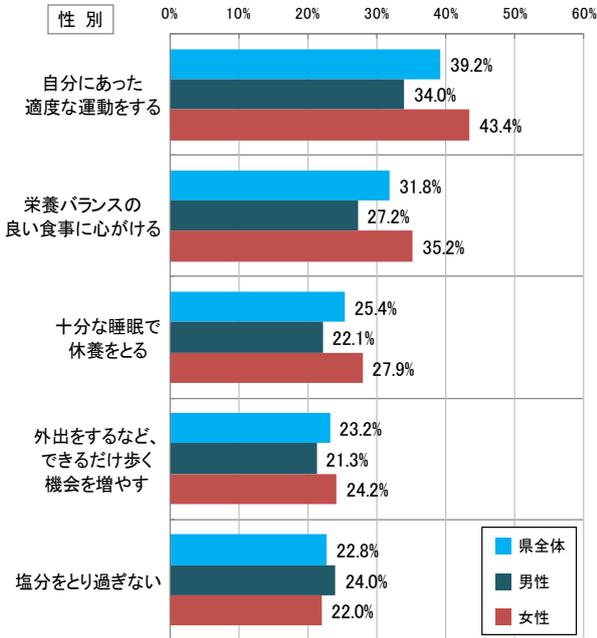
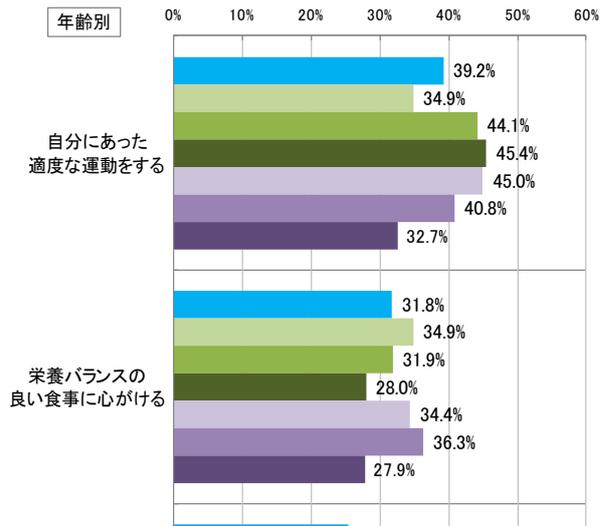
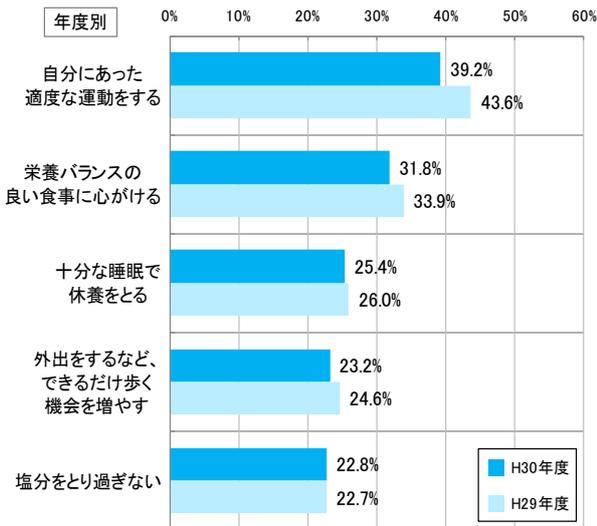
②今後したい健康づくり（問 29-②） 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

■ 今後、どのような健康づくりをしたいかは、県全体・男性・女性ともに「自分にあった適度な運動をする」（県全体 39.2%）が最も多く、次いで「栄養バランスの良い食事に心がける」（県全体 31.8%）となっています。

■ 平成 29 年度と比較すると、「自分にあった適度な運動をする」と答えた人が 4.4 ポイント、「栄養バランスの良い食事に心がける」と答えた人が 2.0 ポイント減少しています。

■ 性別にみると、『女性』の方が『男性』より5ポイント以上多い項目が、「自分にあった適度な運動をする」、「栄養バランスの良い食事に心がける」、「十分な睡眠で休養をとる」となっています。

■ 年齢別にみると、『20 歳代』では「十分な睡眠で休養をとる」、他の年代では「自分にあった適度な運動をする」が最も多くなっています。「十分な睡眠で休養をとる」と答えた人は、概ね年代が低くなるほど多くなっています。



8. スポーツ振興について

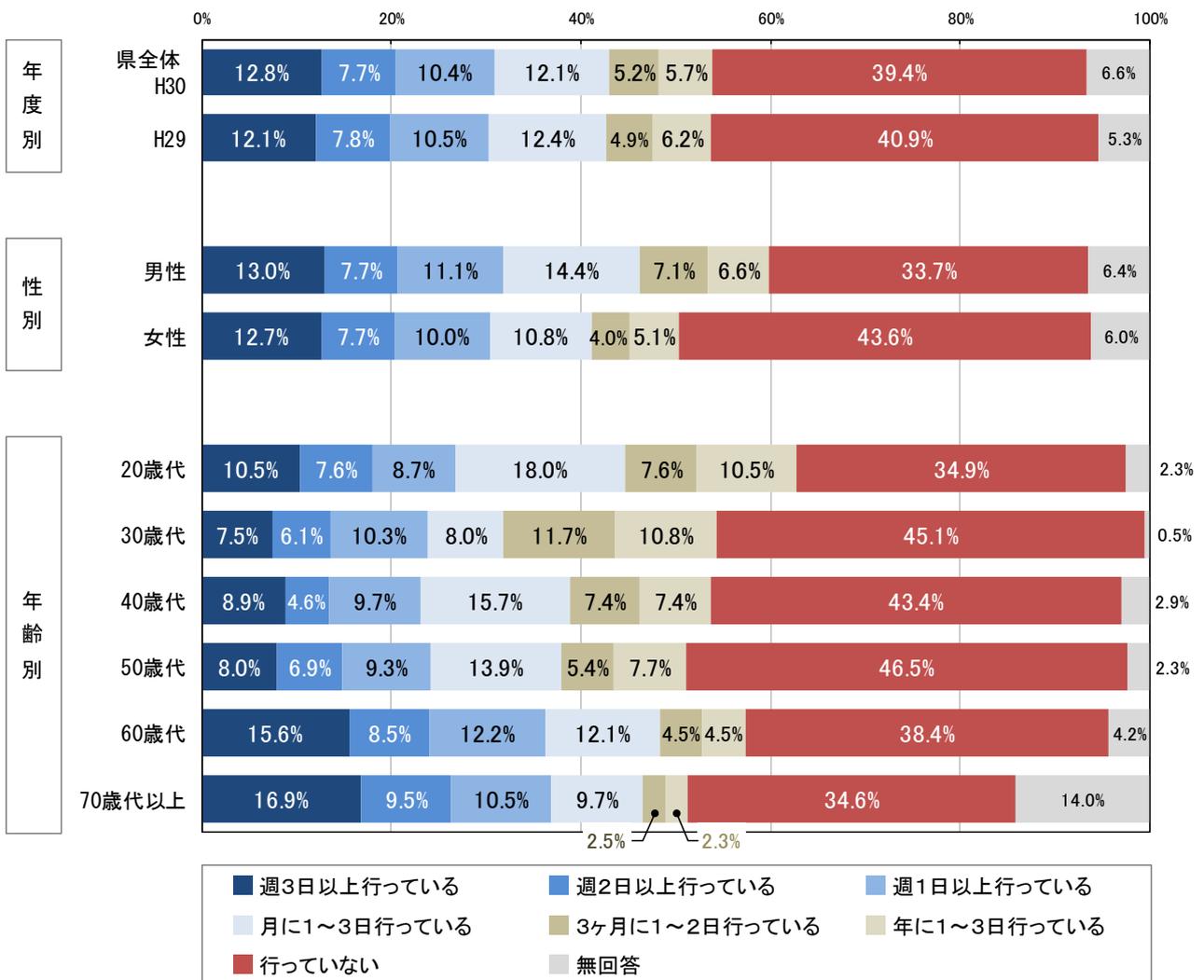
(1) この1年間の運動・スポーツの実施状況

①この1年間に運動・スポーツを行った日数 (問30)

■この1年間に運動・スポーツを1日でも行った人の割合(「週3日以上行っている」～「年に1～3日行っている」の合計)は 54.0%で、平成29年度(53.8%)と比べて0.1ポイント増加しています。一方、「行っていない」と答えた人は39.4%となっています。

■1日でも行った人の割合を性別にみると、『男性』(60.0%)の方が『女性』(50.3%)より9.6ポイント多くなっています。

■1日でも行った人の割合を年齢別にみると、『20歳代』(62.8%)が最も多く、次いで『60歳代』(57.4%)となっています。また、『60歳代』、『70歳代以上』では、「週に3日以上行っている」と答えた人が他の年代と比べて多くなっています。一方、「行っていない」と答えた人は『50歳代』(46.5%)、『30歳代』(45.1%)、『40歳代』(43.4%)で4割以上となっています。

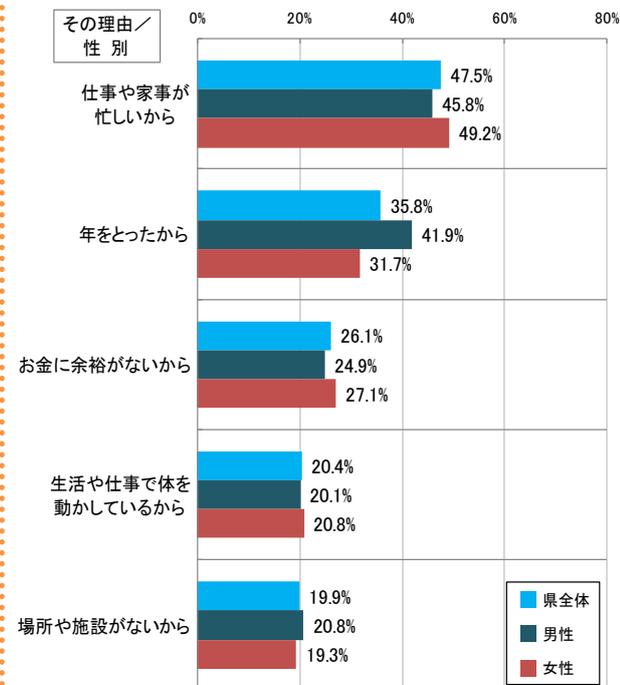
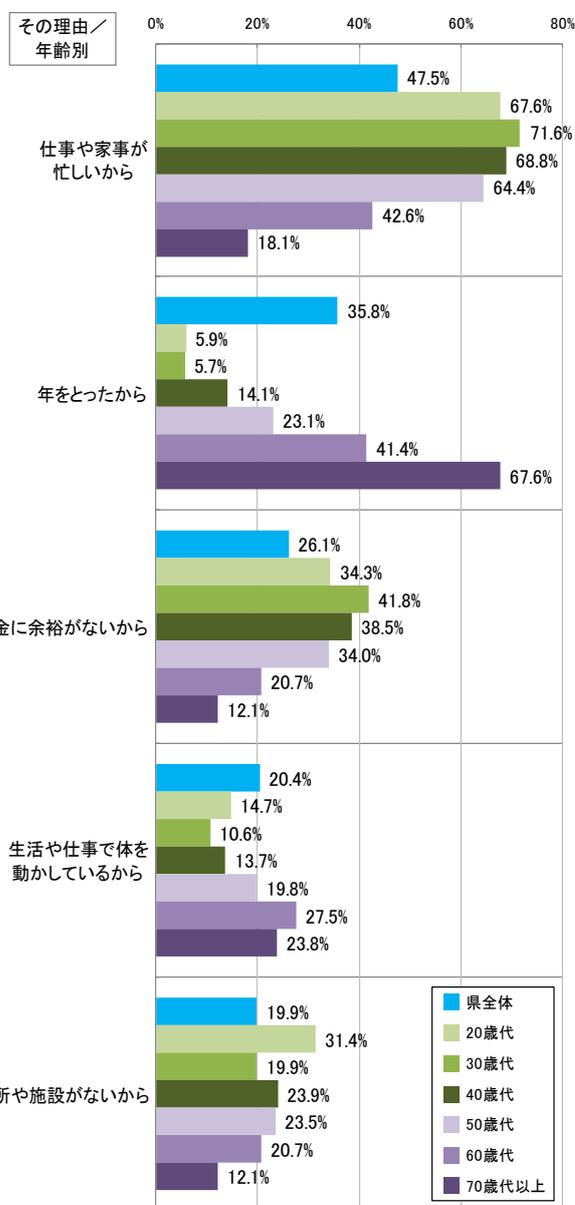
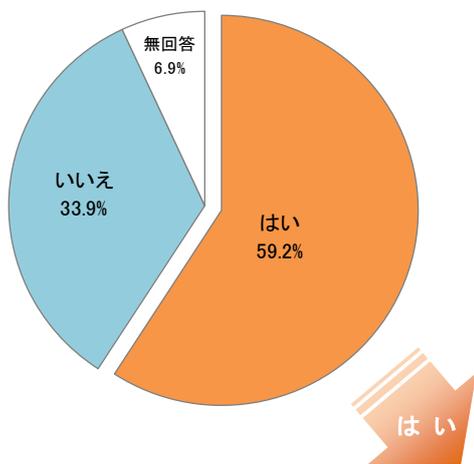


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

② 1年前と比べて運動・スポーツの実施頻度が減った、または増やしたいのに増やすことが出来ないと感じるか（問 32、副問 複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 1年前と比べて運動・スポーツの実施頻度が減った、または増やしたいのに増やすことが出来ないと感じるかは、「はい」が 59.2%、「いいえ」が 33.9%となっています。
- 「はい」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「仕事や家事が忙しいから」(47.5%)が最も多く、次いで「年をとったから」(35.8%)、「お金に余裕がないから」(26.1%)、「生活や仕事で体を動かしているから」(20.4%)、「場所や施設がないから」(19.9%)となっています。
- 性別にみると、『男性』、『女性』ともに「仕事や家事が忙しいから」が最も多く、次いで「年をとったから」となっています。「年をとったから」と答えた人は、『男性』(41.9%)の方が『女性』(31.7%)より10ポイント以上多くなっています。
- 年齢別にみると、『70歳代以上』では「年をとったから」、他の年代では「仕事や家事が忙しいから」が最も多くなっています。

1年前と比べて頻度が減った、または増やしたいのに増やすことが出来ないと感じるか



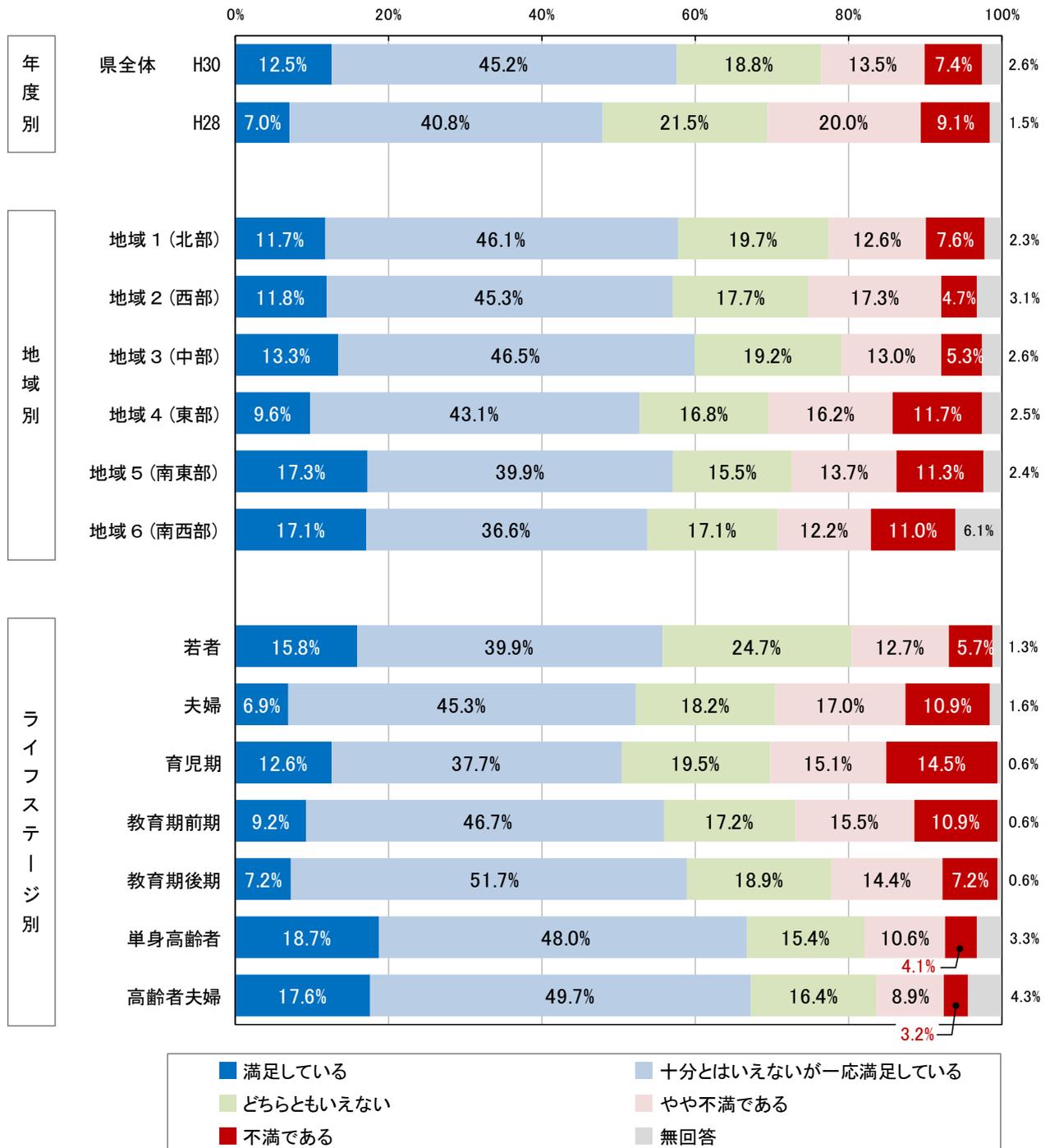
9. 地域医療について

(1) 奈良県の医療環境への満足度 (問34)

■奈良県の医療環境への満足度については、「満足」(「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」と答えた人の割合は57.6%で平成28年度(47.9%)より9.7ポイント増加し、「不満」(「やや不満である」+「不満である」と答えた人の割合は21.0%で平成28年度(29.1%)より8.1ポイント減少しています。

■地域別にみると、「満足」の割合は『地域3(中部)』(59.9%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(57.7%)となっています。一方、「不満」の割合は『地域4(東部)』(27.9%)が最も多く、次いで『地域5(南東部)』(25.0%)となっています。

■ライフステージ別にみると、「満足」の割合は『高齢者夫婦』(67.3%)が最も多く、次いで『単身高齢者』(66.7%)、『教育期後期』(58.9%)となっています。一方、「不満」の割合は『育児期』(29.6%)が最も多く、次いで『夫婦』(27.9%)となっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

(2) 医療環境向上のために、今後重点的に取り組んで欲しいこと

(問 35 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

■ 医療環境向上のために、今後重点的に取り組んで欲しいことについて尋ねたところ、「24時間対応できる断らない救急医療体制の確立」(57.1%)が最も多く、次いで「急病時の困ったときの相談窓口の充実」(29.3%)、「かかりつけ医など身近な医療機関の充実」(25.8%)、「全国トップクラスの高度な医療を提供できる施設整備」(17.8%)、「医療従事者(医師・看護師)の質向上」(16.7%)となっています。

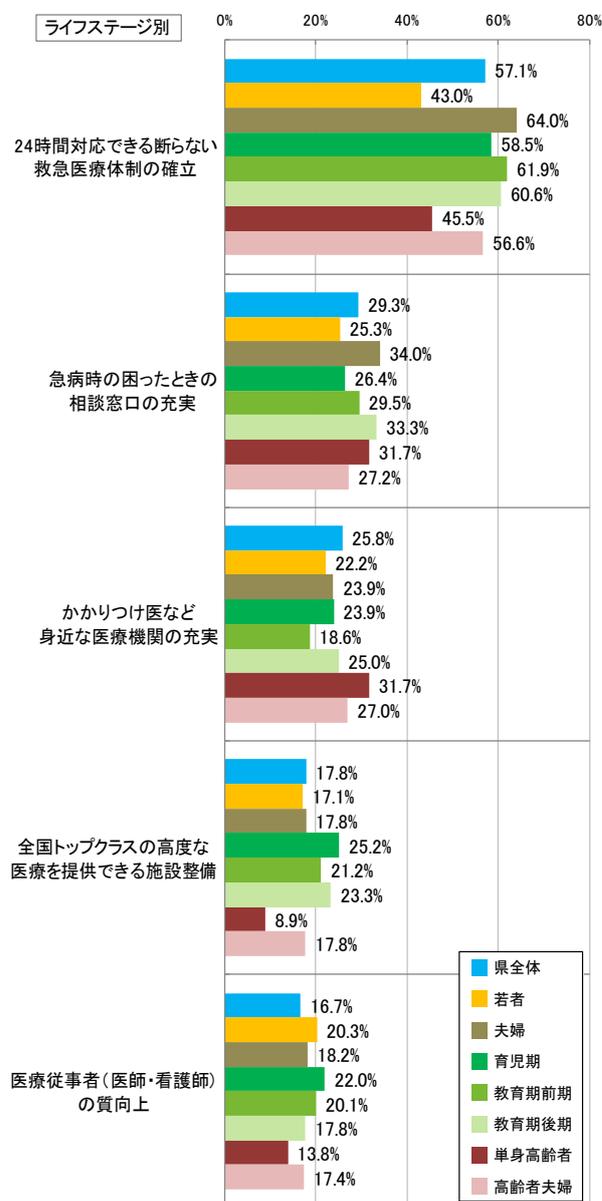
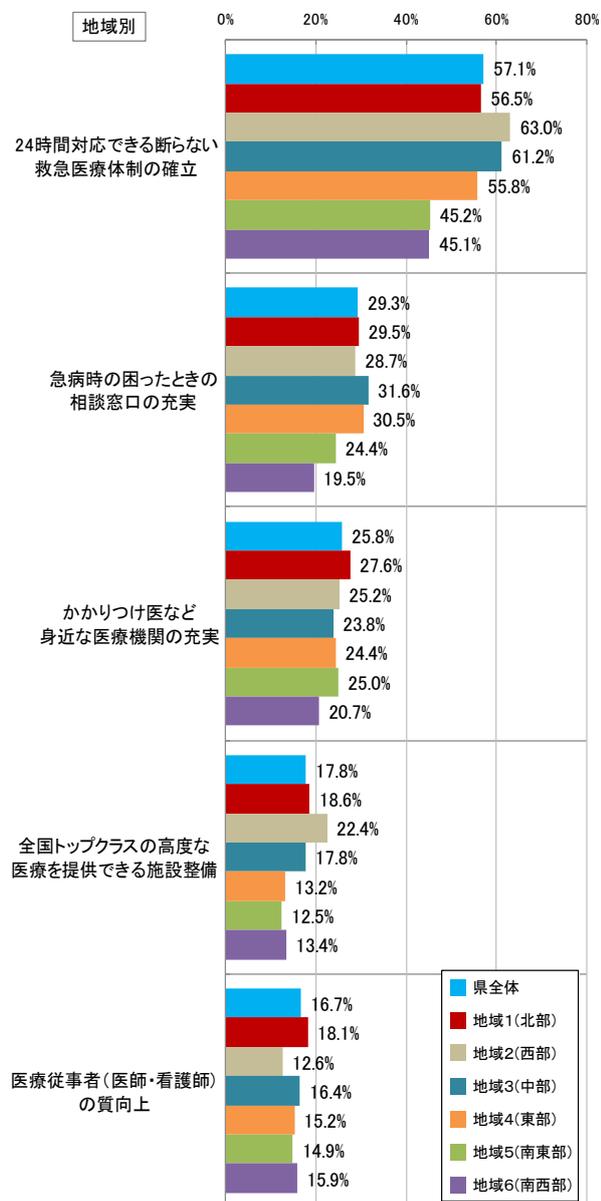
■ 「24時間対応できる断らない救急医療体制の確立」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、ライフステージ別では『夫婦』が最も多くなっています。

■ 「急病時の困ったときの相談窓口の充実」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』、ライフステージ別では『夫婦』が最も多くなっています。

■ 「かかりつけ医など身近な医療機関の充実」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多くなっています。

■ 「全国トップクラスの高度な医療を提供できる施設整備」と答えた人については、地域別では『地域2(西部)』、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。

■ 「医療従事者(医師・看護師)の質向上」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。



(3) 救急の相談電話の認知度・利用状況 (問37)

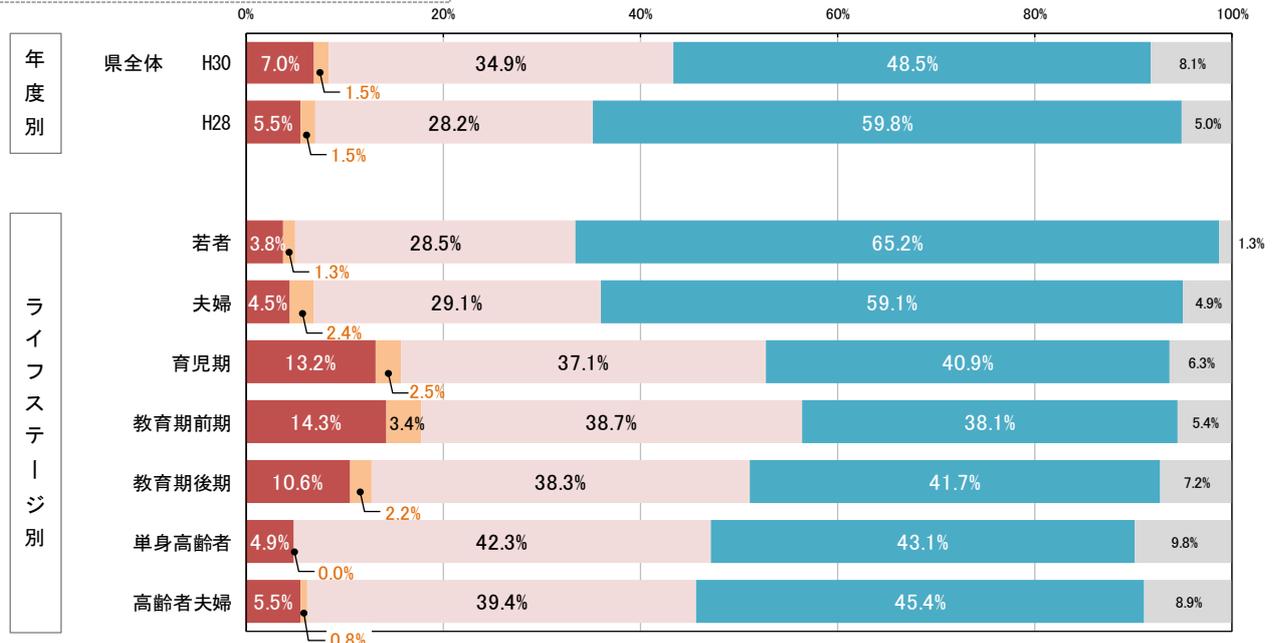
■「奈良県救急安心センター相談ダイヤル(#7119)」の認知度については、「知らなかった」(48.5%)が《知っている》(「利用したことがあり、役に立った」～「知っているが、まだ利用したことがない」の合計)(43.4%)より5.1ポイント多くなっています。また、《利用したことがある》(「利用したことがあり、役に立った」+「利用したことがあり、役には立たなかった」)(8.5%)と答えた人のうち「役に立った」(7.0%)と感じている人は約82%となっています。平成28年度と比較すると、《知っている》が8.2ポイント増加しています。

■#7119を《知っている》と答えた人をライフステージ別にみると、『教育期前期』(56.4%)が最も多く、次いで『育児期』(52.8%)となっています。一方、『若者』(33.5%)と『夫婦』(36.0%)では3割台となっています。

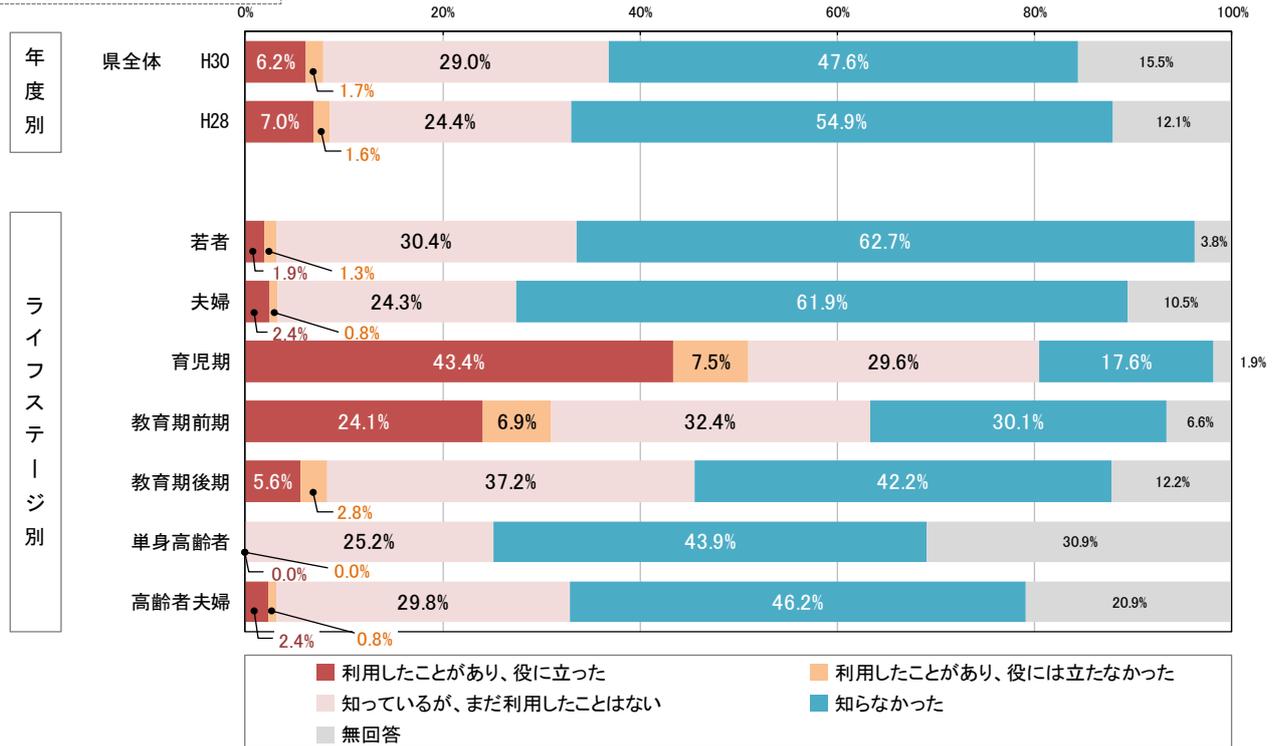
■「子ども救急電話相談(#8000)」の認知度については、「知らなかった」(47.6%)が《知っている》(36.8%)より10.8ポイント多くなっています。また、《利用したことがある》(7.8%)と答えた人のうち「役に立った」(6.2%)と感じている人は約79%となっています。平成28年度と比較すると、《知っている》が3.8ポイント増加しています。

■#8000を《知っている》と答えた人をライフステージ別にみると、『育児期』(80.5%)が最も多く、次いで『教育期前期』(63.3%)、『教育期後期』(45.6%)となっています。一方、『単身高齢者』(25.2%)、『夫婦』(27.5%)では少なくなっています。

奈良県救急安心センター相談ダイヤル(#7119)



子ども救急電話相談(#8000)



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

10. 子育て・結婚について

(1) 子育てに関する満足度 (問 38 5段階ポイント評価)

- 子育てに関する6項目の満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階で評価しました。
- 満足度は、「4. 気軽に相談できる環境が整っている」が3.17ポイントで6項目の中で一番高くなっています。
- 平成29年度と比較すると、「2. いつでも診てもらえる医療体制が整っている」と「3. 保育所が充実している」については満足度が増加しています。
- 地域別にみると、『地域1(北部)』、『地域6(南西部)』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『地域2(西部)』は6項目すべて、『地域3(中部)』は5項目で県全体の満足度より低くなっています。
- 性別にみると、『女性』は4項目で県全体の満足度より高くなっています。
- ライフステージ別にみると、『夫婦』はすべての項目、『単身高齢者』は4項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『教育期前期』はすべての項目、『若者』は5項目で県全体の満足度より低くなっています。

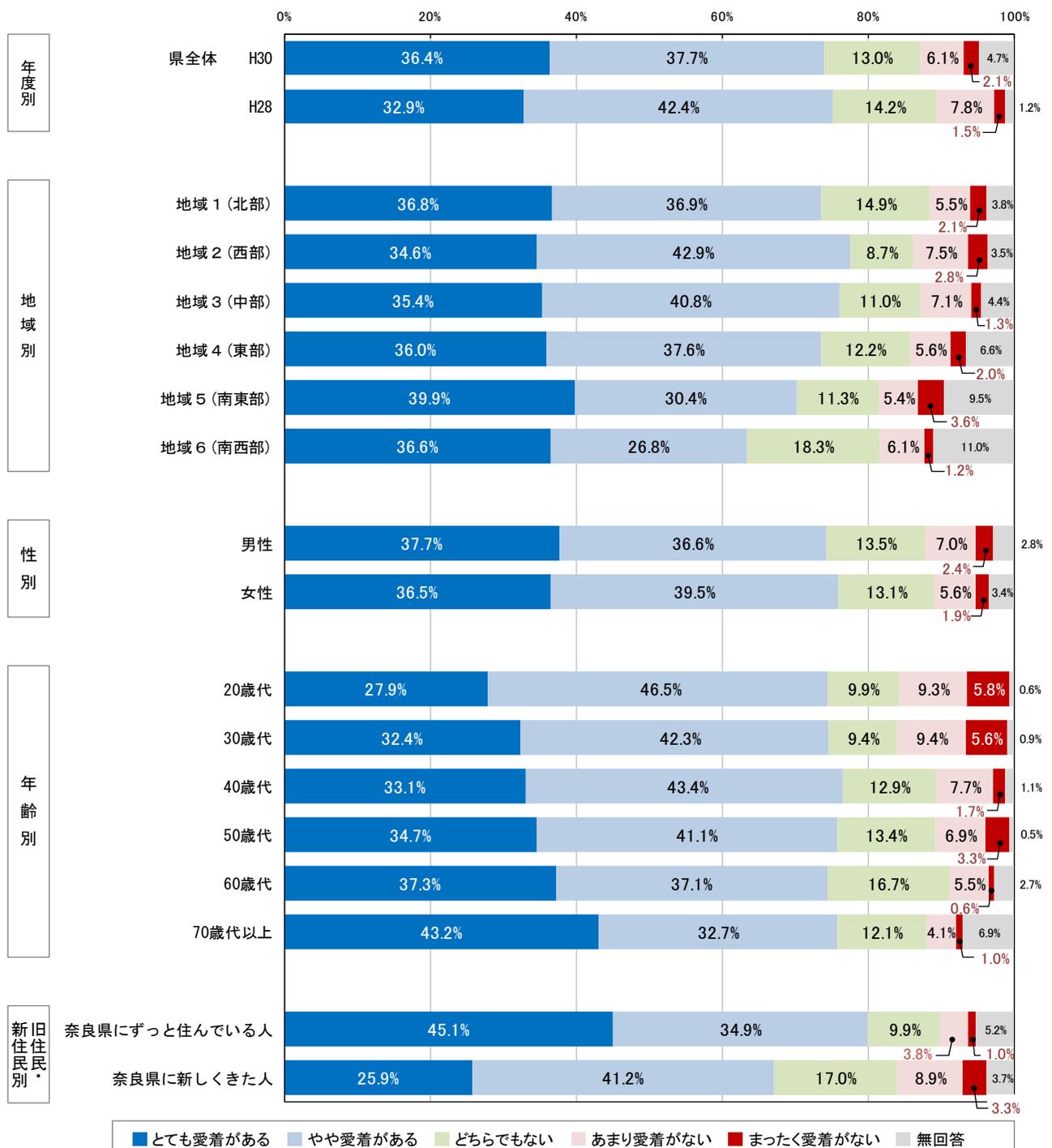


※棒グラフの外側に示した数値は、県全体よりも高いもの。..... は、平成30年度の県全体の値。

11. 奈良県への愛着について

(1) 奈良県への愛着 (問41)

- 奈良県への愛着については、「愛着がある」(「とても愛着がある」+「やや愛着がある」と答えた人の割合は 74.1%で平成 28 年度(75.3%)より 1.2 ポイント減少し、「愛着がない」(「あまり愛着がない」+「まったく愛着がない」と答えた人の割合は 8.2%で平成 28 年度(9.3%)より 1.2 ポイント減少しています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を地域別にみると、『地域2(西部)』(77.6%)が最も多く、次いで『地域3(中部)』(76.2%)となっています。一方、『地域6(南西部)』(63.4%)で最も少なくなっています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を性別にみると、『女性』(76.0%)の方が『男性』(74.4%)より 1.6 ポイント多くなっています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を年齢別にみると、『40 歳代』(76.6%)が最も多く、次いで『70 歳代以上』(75.9%)、『50 歳代』(75.8%)となっています。一方、「愛着がない」と答えた人の割合は『20 歳代』と『30 歳代』で約 15%となっています。
- 「愛着がある」と答えた人の割合を旧住民・新住民別にみると、『奈良県にずっと住んでいる人』(80.1%)の方が『奈良県に新しくきた人』(67.1%)より 13.0 ポイント多くなっています。

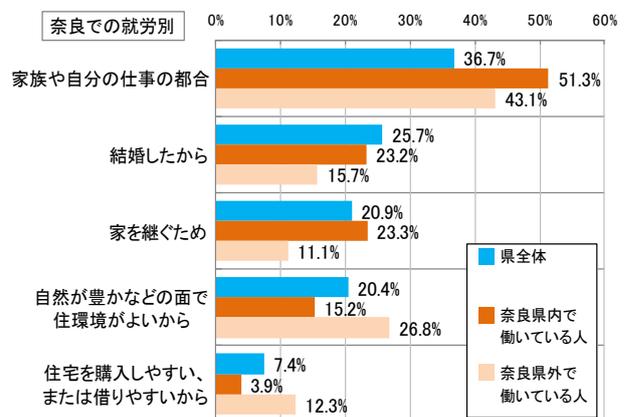
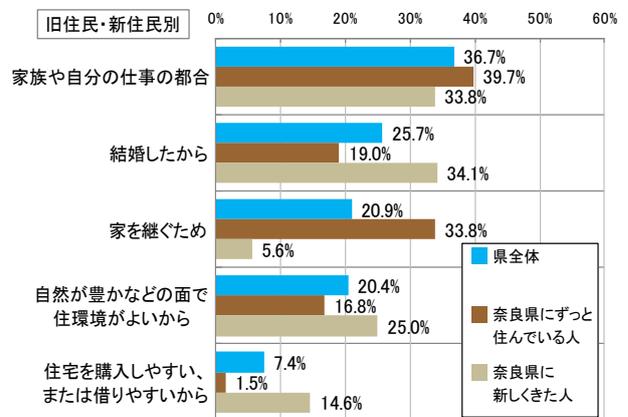
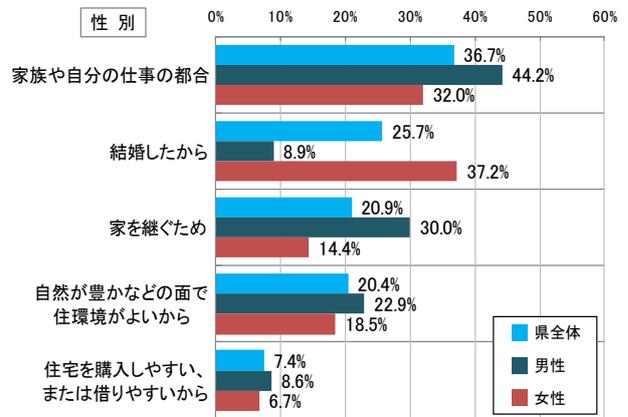
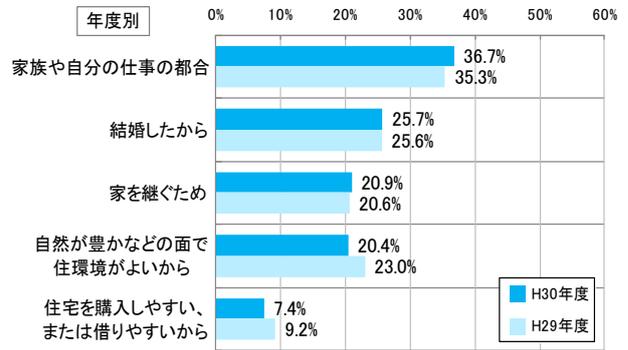
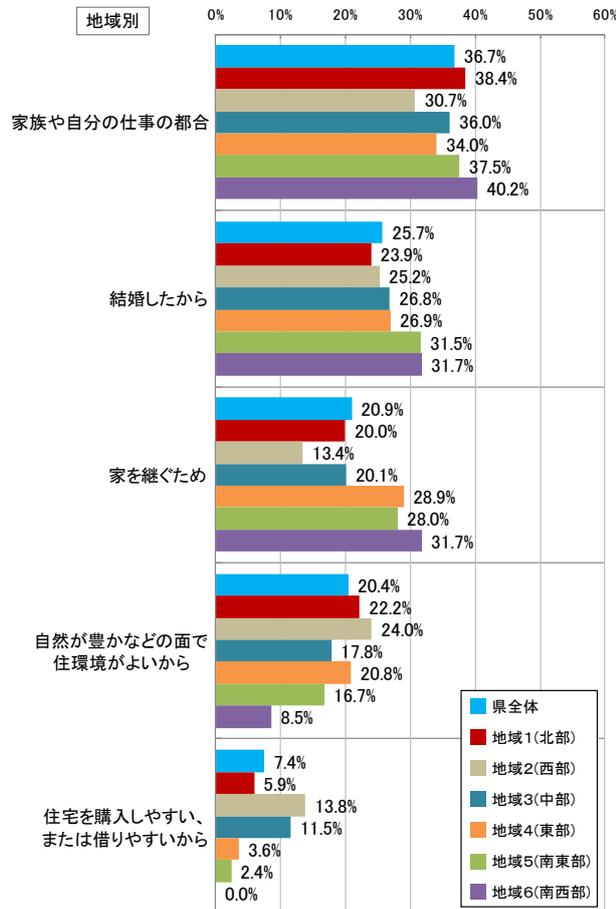


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

12. 回答者に関すること

(1) 奈良での居住理由 (問 48 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(36.7%)が最も多く、次いで「結婚したから」(25.7%)、「家を継ぐため」(20.9%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(20.4%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(7.4%)となっています。
- 平成29年度と比較すると、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」と答えた人は、2.6ポイント減少しています。
- 「家族や自分の仕事の都合」、「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



平成 30 年度
県民アンケート調査
報告書
<概要版>

平成 30 年 11 月

奈良県総務部知事公室統計課
〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地
電話 0742-27-8439
